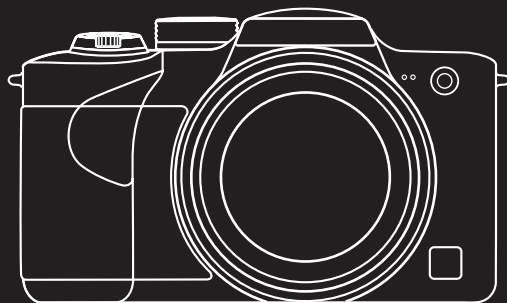
Panasonic®

取扱説明書
デジタルカメラ

品番 DMC-FZ5

LUMIX

LEICA
DC VARIO-ELMARIT

上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびは、デジタルカメラをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**特に「安全上のご注意」(99 ～ 106 ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。** お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

VQT0Q06

もくじ

はじめに

準備

撮る・基本

見る・基本

撮る・応用

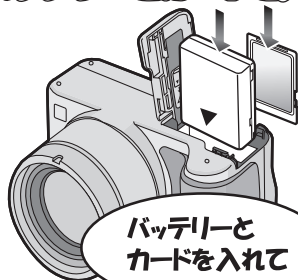
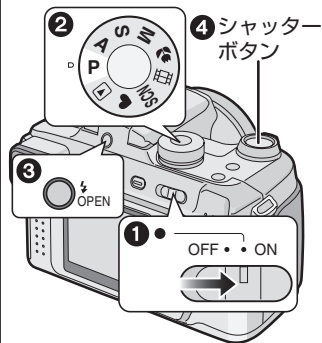
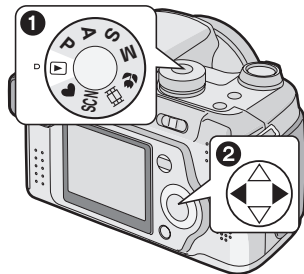
撮影メニュー設定

見る・応用

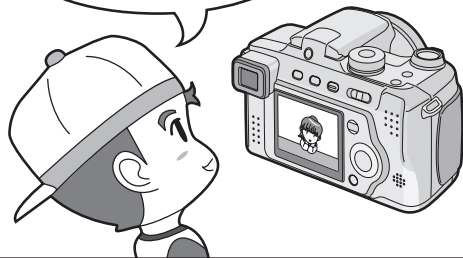
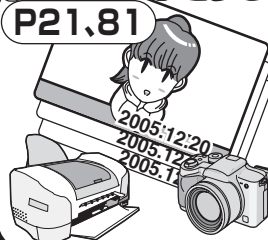
パソコン・プリンターとの接続

その他

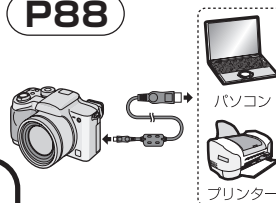
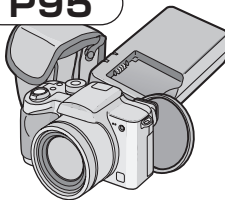
クイックガイド

バッテリーを充電する P11
まずはバッテリーを充電！
バッテリーとカードを入れる P13、14
バッテリーとカードを入れて
撮影する P29
撮影する前に、時計を設定してください。（P20）
❶
電源を[ON]にする
❷
モードダイヤルを[P]に合わせる
❸
フラッシュを開く（フラッシュ撮影をする場合）
❹
シャッターボタンを押して撮影する
❹シャッターボタン
OPEN
OFF ON
P
A
S
M
SCN
撮る！

撮影した画像を見る P45

❶ モードダイヤルを再生モード[▶]に合わせる

❷ 見たい画像を表示する

うまく撮れたかな？

日付プリントをする P21、81

パソコン・プリンターとの接続 P88

パソコン

プリンター

楽しさ広がる別売アクセサリー P95

更に詳しい情報はホームページをご覧ください。

http://panasonic.jp

使う前に　まずお読みください

事前に必ずためし撮りをしてください(4 ページのクイックガイドを参照してください)

大切な撮影（結婚式など）は、必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影や録音されていることを確かめてください。

撮影内容の補償はできません

本機およびカードの不具合で撮影や録音されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

著作権にお気を付けください

あなたが撮影や録音したものは､個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気を付けください。

カードの画像について

- 以下の場合、本機で再生できない場合があります。
  - 他機で記録、作成した画像
  - パソコンで編集された画像
- 本機で記録、作成した画像は他機で再生できない場合がありますので、あらかじめお確かめください。

本機で使用できるカードは

SD メモリーカード、マルチメディアカードです。

- 本書では SD メモリーカードとマルチメディアカードを「カード」と記載しています。

- 本製品に付属するソフトウェアを無断で営業目的として複製（コピー）したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。
- 本製品の使用、または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書で説明する製品の外観と仕様は、改良により実際とは異なる場合があります。

- SD ロゴは商標です。
- Microsoft Windows は､米国 Microsoft Corporation の商標です。
- Macintosh､Mac OS は Apple Computer Inc. の登録商標または商標です。
- LEICA/ ライカはライカマイクロシステム IRGmbH の登録商標です。
- ELMARIT/ エルマリートはライカカメラ AG の登録商標です。
- QuickTime および QuickTime ロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTime は米国および他の国々で登録された商標です。
- その他、本書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。
この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

故障を防ぐために

■ 本機の取り扱いについて

- **本機に強い振動や衝撃を与えないでください。**誤動作したり、画像が記録できなくなる可能性があります。また、レンズが破壊される可能性があります。
- **砂やほこりは、本機の故障につながります。浜辺などで使うときは、レンズ部内部や端子部に砂やほこりが入らないようにしてください。**
- 雨の日や浜辺などで撮影するときは、本機をぬらさないようにお気を付けください。
- **万一水や海水がかかったときは、よく絞った布でふき、そのあと乾いた布でふいてください。**

■ 液晶モニター/ ファインダーについて

- **液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。**
- 温度差が激しい場所では、液晶モニターにつゆが付くことがあります。柔らかい乾いた布でふいてください。
- 寒冷地などで本機が冷えきっている場合、電源を入れた直後は液晶モニター / ファインダーが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

液晶モニター / ファインダーは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。液晶モニター / ファインダーの画素については 99.99%以上の高精度管理をしておりますが、0.01%以下で画素欠けするものがあります。またこれらの点は、カードの画像には記録されませんのでご安心ください。

■ レンズについて

- レンズ面を強く押さないでください。
- レンズを太陽に向けたまま放置すると、故障の原因になります。屋外や窓際に置くときにはお気を付けください。

■ つゆつきについて(レンズやファインダーがくもるとき)

つゆつきは、下記のように温度差や湿度差があると起こります。レンズ汚れ、かび、故障の発生原因になりますのでお気を付けください。

- 寒い屋外から暖かい屋内に持ち込んだとき
- 車外から冷房の効いた車などに持ち込んだとき
- エアコンなどの冷風が本機に直接当たっているとき
- 湿気がたち込めるなど、湿度の高いところ

つゆつきの発生を防ぐためにビニール袋に入れて周囲の気温になじませてください。万一つゆつきが起こった場合、電源を [OFF] にし、2 時間ほどそのままにしてください。周囲の温度になじむと、くもりが自然に取れます。

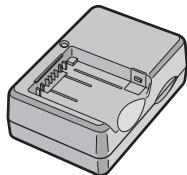
■ 長期間使用しないときは

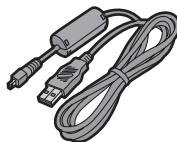
- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。
  (推奨温度 :15 ℃～ 25 ℃、推奨湿度 :40 %～ 60 %です)
- バッテリーとカードは必ず本機から取り出してください。
- バッテリーを付けたままにしておくと、本機の電源が [OFF] であっても、絶えず微少電流が流れています。これをそのままにしておくと、過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなる恐れがあります。
- 長期間保管する場合、1 年に 1 回は充電し、バッテリー残量がなくなったあと、本機から取り外して再保管することをおすすめします。
- 押入れや戸棚に保管するときは、乾燥剤（シリカゲル）と一緒に入れることをおすすめします。

付属品

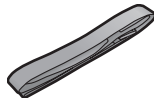
本機をご使用いただく前に、すべての付属品が入っていることをご確認ください。
記載の品番は 2005 年 2 月現在のものです。

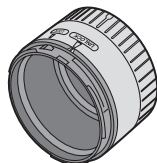
■ **バッテリーパック**
DMW-BM7
(本文中では**バッテリー**と表記します)

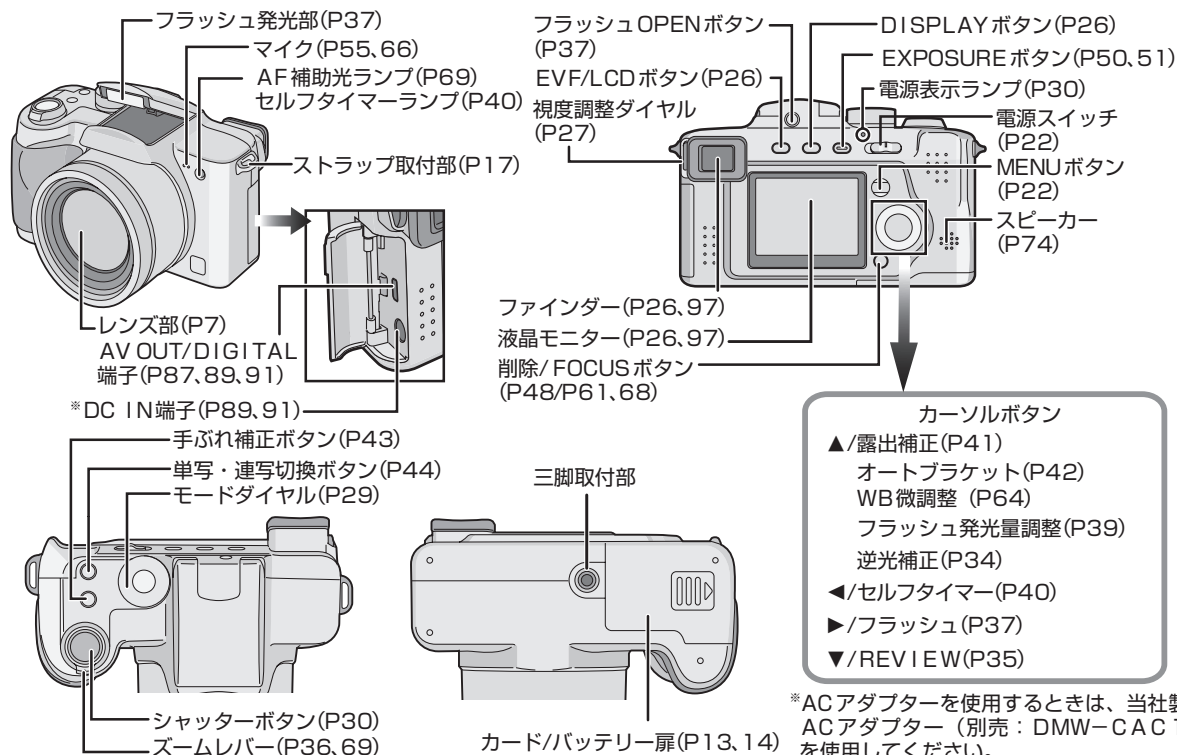
■ **バッテリーチャージャー**
DE-993A
(本文中では**チャージャー**と表記します)

■ **AV ケーブル**
K1HA08CD0005

■ **USB 接続ケーブル**
K1HA08CD0004

■ **CD-ROM**

■ **レンズキャップ**
レンズキャップひも
VYK0W73

■ **ストラップ**
VFC4078

■ **レンズフード**
VYQ3385(シルバー)
VYQ3386(ブラック)

■ **レンズフードアダプター**
VYQ3387(シルバー)
VYQ3388(ブラック)

- SD メモリーカードは別売です。
- 別売アクセサリーについては 95 ページを参照してください。

各部の名前

※ACアダプターを使用するときは、当社製のACアダプター（別売：DMW−CAC1）を使用してください。

準備

本書について

各機能や設定が使用できるモードを表しています。
モードダイヤルをいずれかに合わせてご使用ください。

フラッシュを使って撮る

モードダイヤル設定：P A S M SCN

撮影状況に応じて、フラッシュを使って撮影できます。

つづく

次のページへ続くことを表しています。

・フラッシュ使用時はISO感度を[AUTO]に設定すると、自動的に[ISO100]〜[ISO400]まで高くしていきます。

本機を使用するうえで、知っておくと便利なことや参考になることを記載しています。

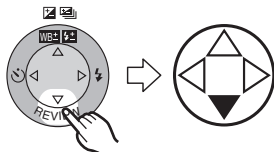
このページは説明のためのサンプルですので、実際のページとは異なります。ご了承ください。

■ 本書内のイラスト表示について

本書内の製品姿図・イラスト・メニュー画面などは実物と多少異なりますが、ご了承ください。

■ カーソルボタンのイラストについて

本書ではカーソルボタンを図のように説明しています。

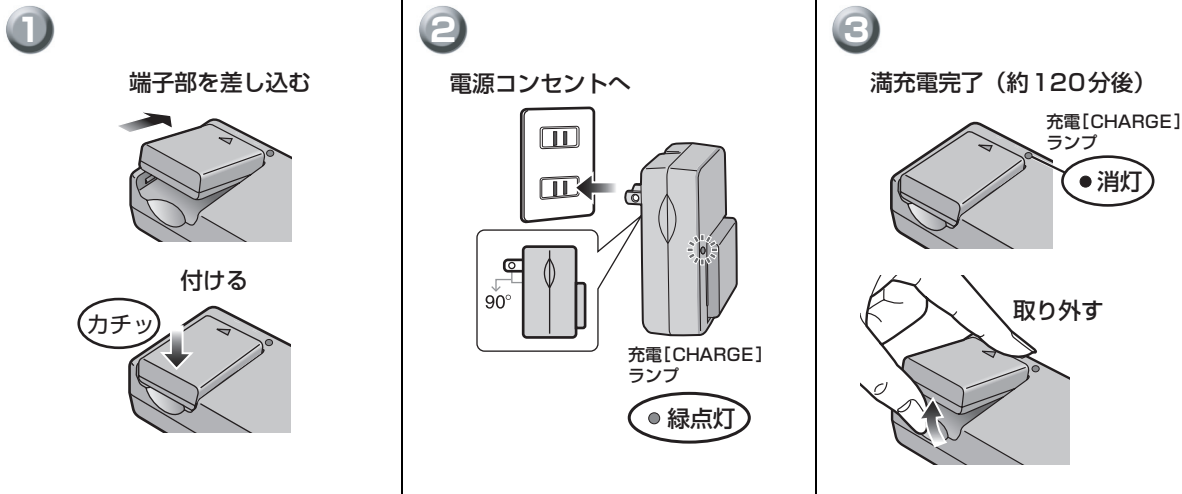
例：▼ボタンを押すとき

バッテリーをチャージャーで充電する

● お買い上げ時、バッテリーは充電されていませんので、充電してからお使いください。

端子部を差し込む

付ける

カチッ

満充電完了（約120分後）

● 充電完了後、電源コンセントから外してください。
● 使用後、充電中や充電後はバッテリーが温かくなります。また使用中は本機も温かくなりますが、異常ではありません。
● **本機専用のチャージャーとバッテリーを使用してください。**
● **チャージャーは海外でも使うことができます。****（P109）**
● **チャージャーは屋内で使用してください。**

バッテリーについて

■ 残量表示について

残量表示が液晶モニター / ファインダーに表示されます。[AC アダプター（別売：DMW-CAC1）につないで使用するときは表示されません]

表示が赤色に変わり点滅します。
バッテリーを充電または満充電されたバッテリーと交換してください。

■ 電池寿命について

CIPA 規格による撮影枚数（プログラム AE モード時）

- CIPA は、カメラ映像機器工業会（Camera & Imaging Products Association）の略称です。

撮影可能枚数	約 300 枚（約 150 分相当）

CIPA 規格による撮影条件

- 温度 23 ℃ / 湿度 50 %、液晶モニターを点灯
- 当社製の SD メモリーカード(別売：16 MB)※使用
- 付属バッテリー使用
- 電源を入れてから 30 秒経過後、撮影を開始
- **30 秒間隔で 1 回撮影**、フラッシュを 2 回に 1 回フル発光
- 撮影ごとに、T端→W端またはW端→T 端にズームを動かす
- １０枚撮影ごとに電源をいったん切る

※カードは付属していません。

撮影枚数は撮影間隔によって変わります。
撮影間隔が長くなると撮影枚数は減少します。
（2 分に 1 回撮影した場合は、約 75 枚に減少します）

ファインダー使用時の撮影枚数（条件は上記 CIPA 規格と同じ）

撮影可能枚数	約 320 枚（約 160 分相当）

液晶モニター使用時の再生時間

再生時間	約 300 分

撮影枚数 / 再生時間はバッテリーの保存状態や使用条件によって多少変わります。

■ 充電について

充電時間	約 120 分

別売のバッテリーパック（DMW-BM7）の充電時間と撮影可能枚数は、付属のバッテリーパックの場合と同じです。

- 充電が始まると、充電 [CHARGE] ランプが点灯します。

■ 充電エラーについて

- 充電開始後、充電 [CHARGE] ランプが点灯から約 1 秒間隔の点滅になった場合は充電エラーです。
  このときは、チャージャーを電源コンセントから抜いて、バッテリーを取り出し、周囲の温度やバッテリーが低温または高温になっていないかを確認し、もう一度充電し直してください。しばらく充電してもまだ充電 [CHARGE] ランプが点滅する場合は、販売店にご相談ください。
- 正しく充電したにもかかわらず、著しく使用できる時間が短くなったときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

■ 充電する環境について

- 充電は周囲の温度が 10 ℃～ 35 ℃(バッテリーの温度も同様）のところで行ってください。
- スキー場などの低温下では、バッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなる場合があります。

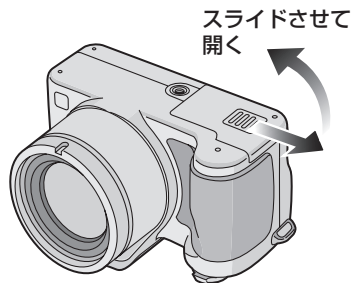
バッテリーを入れる・取り出す

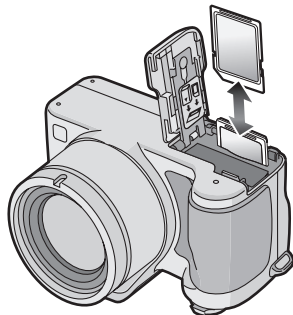
- 電源が [OFF]、レンズが収納されていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

準備

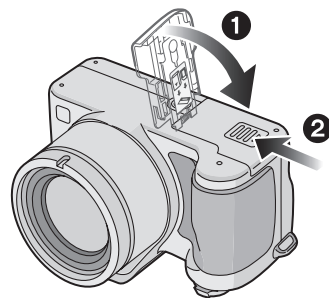
- 本機を長期間使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。
- 満充電されたバッテリーを挿入して約 24 時間経過すると、バッテリーを取り出して放置しても、約 3ヵ月は時計設定を記憶しています。(十分に充電されていないバッテリーを挿入した場合は、記憶時間は短くなることがあります)
しかしそれ以上時間が経過すると設定が消えますので、もう一度時計を設定してください。(P20)
- **カードのデータが破壊される可能性がありますので、アクセス中はカードやバッテリーを取り出さないでください。(P15)**
- **カメラの設定が正しく保存されない可能性がありますので、電源を [ON] にしたままバッテリーを取り出さないでください。**
- **付属のバッテリーは、本機専用です。本機以外で使わないでください。**

カード（別売）を入れる・取り出す

- 電源が [OFF]、レンズが収納されていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

- **電源を [ON] にしたままカードを入れたり、取り出したりすると、カードやカードのデータが壊れる原因になることがあります。**
- カードは当社製のものをお使いいただくことをおすすめします。(正規カード以外は使用しないでください)

入れるときは、「カチッ」と音がするまで奥まで入れる

取り出すときは「カチッ」と音がするまで押し、まっすぐ引き抜く

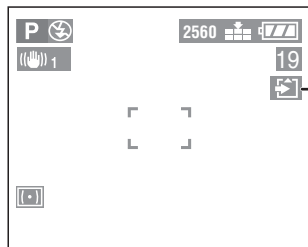
- カードの向きを確認してください。
- カードの裏の接続端子部に触れないでください。
- カードを奥まで入れないと、カードが壊れる原因になることがあります。

❶ カード/バッテリー扉を閉じる

❷ 最後までスライドさせて確実に閉じる

- カード / バッテリー扉が完全に閉じない場合は、一度カードを取り出してから、もう一度入れ直してください。

カードについて

■ カードアクセス中は･･･

カードに画像を記録しているときは、カードアクセス表示が赤く点灯します。

カードアクセス表示が点灯しているときや、画像の読み出し、画像削除やカードのフォーマット中などは、以下のことをお守りください。

- 電源を [OFF] にしない
- バッテリーやカードを取り出さない
- 本機に振動や衝撃を与えない

カードやカードのデータが壊れたり、本機が正常に動作しなくなることがあります。

■ カードの取り扱いについて

大切なデータはパソコン（P89）などにも保存してください。電磁波、静電気、本機やカードの故障などによりカードのデータが壊れたり消失することがあります。

- パソコンやその他の機器でフォーマットされた場合、もう一度本機でフォーマットしてください。（P86）

■ SD メモリーカード(別売)と マルチメディアカード(別売)について

SD メモリーカードとマルチメディアカードは小型、軽量で、着脱可能な外部メモリーカードです。

SD メモリーカードは記録 / 読み出し速度が速く、カードへの書き込みやフォーマットを禁止する書き込み禁止スイッチを備えています。(スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやデータの消去、フォーマットはできなくなり、戻すと可能になります)

- 本機では､以下の容量(8 MB ～ 1 GB まで)の SD メモリーカードが使用できます。

8 MB、16 MB、32 MB、64 MB、 128 MB、256 MB、512 MB、1 GB まで

最新情報は下記サポートサイトでご確認ください。 http://panasonic.jp/support/dsc/

- 本機はSD規格に準拠したFAT12､FAT16形式でフォーマットされた SD メモリーカードに対応しています。
- マルチメディアカードを使う場合、動画記録後、カードアクセス表示がしばらく出る場合がありますが、異常ではありません。

■miniSD™ カード(別売)について

- miniSD™ カードを本機で使用する場合は､専用のminiSD™アダプターを必ず装着してお使いください。
- miniSD™アダプターのみを本機に挿入すると､正常に動作しません。必ず miniSD™ カードを入れてお使いください。

記録画素数と記録枚数について

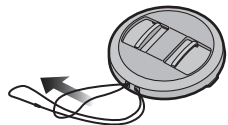
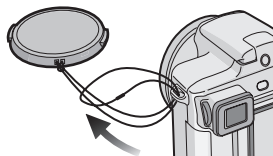
記録画素数	2560×1920			2048×1536			1600×1200		
クオリティ	TIFF	ファイン	スタンダード	TIFF	ファイン	スタンダード	TIFF	ファイン	スタンダード
16 MB	0 枚	約 5 枚	約 11 枚	約 1 枚	約 9 枚	約 17 枚	約 2 枚	約 14 枚	約 28 枚
32 MB	約 1 枚	約 12 枚	約 24 枚	約 3 枚	約 19 枚	約 37 枚	約 4 枚	約 31 枚	約 59 枚
64 MB	約 3 枚	約 25 枚	約 49 枚	約 6 枚	約 39 枚	約 75 枚	約 10 枚	約 63 枚	約 121 枚
128 MB	約 8 枚	約 51 枚	約 100 枚	約 12 枚	約 79 枚	約 153 枚	約 20 枚	約 128 枚	約 244 枚
256 MB	約 15 枚	約 99 枚	約 195 枚	約 24 枚	約 154 枚	約 299 枚	約 39 枚	約 250 枚	約 476 枚
512 MB	約 30 枚	約 197 枚	約 387 枚	約 48 枚	約 305 枚	約 592 枚	約 78 枚	約 495 枚	約 944 枚
1 GB	約 61 枚	約 395 枚	約 775 枚	約 96 枚	約 610 枚	約 1185 枚	約 157 枚	約 991 枚	約 1889 枚

記録画素数	1280×960			640×480			1920×1080（HDTV）		
クオリティ	TIFF	ファイン	スタンダード	TIFF	ファイン	スタンダード	TIFF	ファイン	スタンダード
16 MB	約 3 枚	約 22 枚	約 41 枚	約 13 枚	約 69 枚	約 113 枚	約 2 枚	約 13 枚	約 25 枚
32 MB	約 7 枚	約 47 枚	約 86 枚	約 28 枚	約 145 枚	約 236 枚	約 4 枚	約 28 枚	約 54 枚
64 MB	約 15 枚	約 96 枚	約 176 枚	約 58 枚	約 298 枚	約 484 枚	約 9 枚	約 58 枚	約 110 枚
128 MB	約 31 枚	約 195 枚	約 356 枚	約 118 枚	約 602 枚	約 979 枚	約 18 枚	約 118 枚	約 223 枚
256 MB	約 61 枚	約 381 枚	約 693 枚	約 231 枚	約 1173 枚	約 1906 枚	約 36 枚	約 231 枚	約 435 枚
512 MB	約 121 枚	約 755 枚	約 1373 枚	約 457 枚	約 2324 枚	約 3777 枚	約 72 枚	約 457 枚	約 863 枚
1 GB	約 243 枚	約 1511 枚	約 2747 枚	約 915 枚	約 4650 枚	約 7556 枚	約 145 枚	約 915 枚	約 1727 枚

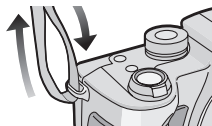
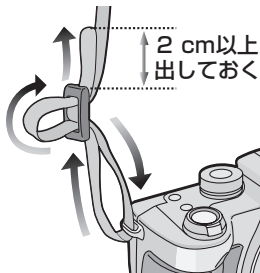
- 大きい記録画素数を選ぶと、鮮明にプリントすることができます。小さい記録画素数を選ぶと、より多く記録できます。
- 記録枚数はめやすです。（TIFF、ファイン、スタンダード混在時は変化します)
- 被写体により記録枚数は変動します。
- 液晶モニター / ファインダーに表示される残り枚数は、撮影された枚数分減少しない場合があります。

レンズキャップ・ストラップを付ける

■ レンズキャップ(付属)を付ける

① レンズキャップにひもをとおす

② カメラにレンズキャップひもをとおす

③ レンズキャップを付ける

■ ストラップ(付属)を付ける

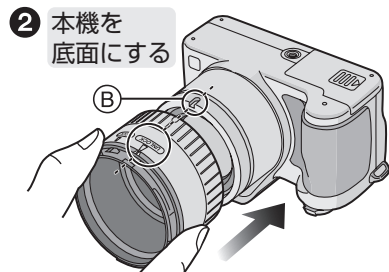
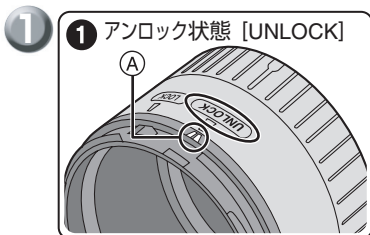
① ストラップ取付部にとおす

② 止め具にとおして止める

- ねじれないように、もう片方も付けてください。
- ストラップがしっかり付けられていることを確認してください。
- LUMIX のロゴが見えるように付けてください。

- 電源を[OFF]にしているときや持ち運ぶとき、撮影した画像の再生中は、レンズ面の保護のため、レンズキャップを取り付けてください。
- 撮影モードで電源を入れる前に、レンズキャップを外してください。
- モードダイヤルが撮影系のとき、レンズキャップを付けたまま電源を[ON] にすると、「レンズキャップを外して ▶ を押してください」というメッセージが表示されます。
  レンズキャップを外したあと、▶ ボタンを押してください。
- レンズキャップの紛失にお気を付けください。

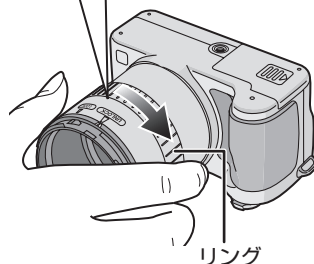
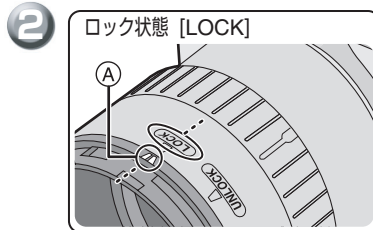
レンズフードを付ける

日差しの強い中、逆光時にゴーストやフレアを軽減します。余分な光をさえぎり、より美しく撮れます。

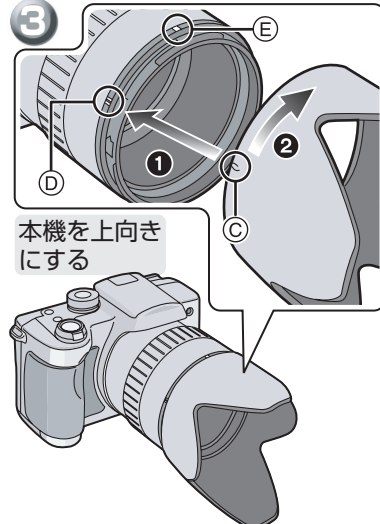
- 電源が [OFF]、レンズが収納されていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

1

❶ レンズフードアダプターの Ⓐ の位置を [UNLOCK] に合わせる

❷ [UNLOCK] と本機の Ⓑ の位置を合わせてまっすぐ挿入する

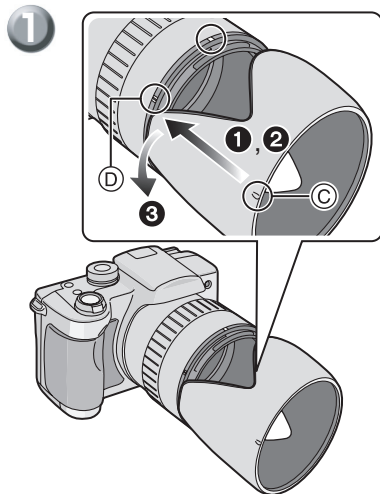
2

[LOCK] の位置が、レンズフードアダプターの Ⓐ の位置に合うまでリングを矢印方向に回転させる

- 「カチッ」と音がするまで回転させてください。

3

❶ レンズフードの Ⓒ の位置とレンズフードアダプターの Ⓓ の位置を合わせる

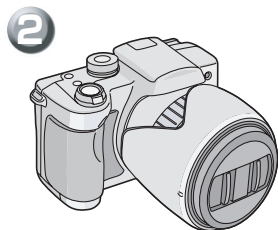
❷ レンズフードを Ⓓ の位置から Ⓔ の位置まで回転させる

■ 一時的にレンズフードを外して運ぶ場合

❶

❶レンズフードを外して向きを逆にし、レンズフードの Ⓒ の位置とレンズフードアダプターの Ⓓ の位置を合わせる

❷レンズフードをレンズフードアダプターにまっすぐ挿入する

❸レンズフードを反時計回りに「カチッ」と音がするまで回転させる

❷

レンズキャップを付ける

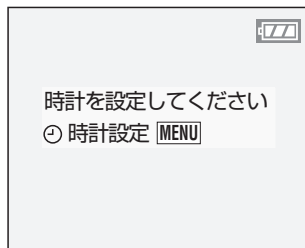
- 仮収納した状態での撮影はしないでください。
- レンズキャップがしっかり付いていることを確認してください。
- レンズフード装着時はレンズキャップのひもを外し、レンズキャップのみを付けてください。

- レンズフードを付けているときは、フラッシュを使用するとフラッシュ光がレンズフードにさえぎられ、画面の下が暗く（ケラレ）なり、また調光もできなくなります。レンズフードを外して使用することをおすすめします。

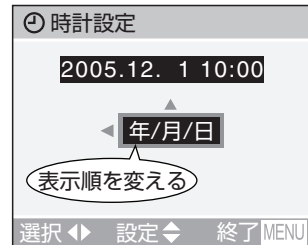
- 暗いところでAF補助光を使用するときは、レンズフードを外してください。
- MCプロテクターとNDフィルターの取り付けかたについては96ページをお読みください。
- 付属品をなくされたときは、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口（P124～127）にお問い合わせください。

時計を設定する

■ お買い上げ時は･･･

時計設定はされていませんので、電源を [ON] にすると、下のような画面が表示されます。

- [MENU] ボタンを押すと ① の画面が表示されます。
- 約5秒経過すると画面が消えますので、電源を入れ直すか、セットアップメニューから [時計設定] を選んで設定してください。（P22）

年月日と時刻を合わせる

- ◀/▶ ：合わせたい項目（年・月・日・時・分）を選ぶ
- ▲/▼ ：年月日、時刻を設定する

表示の順番を選ぶ

- 表示順を変えると、以下のように表示されます。
  （例;2005年12 月1日10時00分）

[年/月/日]: 2005.12.1 10:00

[日/月/年]: 10:00 1.DEC.2005

[月/日/年]: 10:00 DEC.1.2005

- 設定終了後、[MENU]ボタンを2回押して、メニューを終了してください。
- そのあと、一度電源を[OFF]にしてからもう一度 [ON] にして、設定どおり表示されているか確認してください。

- 満充電されたバッテリーを挿入して約 24 時間経過すると､バッテリーを取り出して放置しても､約 3ヵ月は時計設定を記憶しています。(十分に充電されていないバッテリーを挿入した場合は記憶時間は短くなることがあります）しかしそれ以上時間が経過すると、設定が消えてしまいますので、もう一度時計を設定してください。
- 年は2000年から2099年まで設定できます。時刻は 24 時間表示です。
- 日付設定を行っていないと、お店にデジタルプリントを依頼するときに、日付を印刷することができませんのでお気を付けください。

日付プリントについて

日付プリントを設定する

DPOFプリント設定のプリント枚数設定時に[DISPLAY]ボタンを押すと、押すごとに日付プリントを設定/解除できます。（P81）

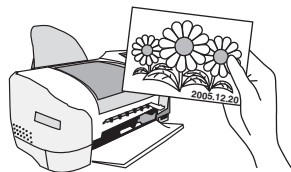
お店に依頼する場合

設定さえしておけば、カードを取り出して、お店に日付入りで依頼するだけです。

※ お店によっては、DPOFプリント設定の日付を印刷できない場合があります。詳しくは、お店にお尋ねください。

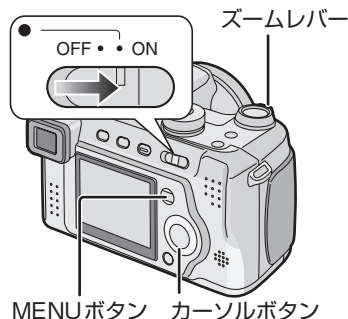
自宅でプリントする場合

日付プリントに対応しているプリンターに本機を接続して、印刷するだけで日付プリントができます。（P91）

CD−ROM（付属）のソフトウェア「SD Viewer for DSC」をお使いの場合は、印刷プレビュー画面で日付位置の設定をすると、日付入りで写真を印刷できます。詳しくは、別冊の「パソコン接続編取扱説明書」をお読みください。

プリンター

セットアップメニューについて

● 必要に応じて設定してください。(各項目については 23 ～ 25 ページをお読みください)

① 電源スイッチを [ON] にする

● モードダイヤル (P29) で選んでいるモードによって、メニュー項目は異なります。
ここでは、プログラム AE モード [P] 時の例で説明しています。

② メニュー画面を開く

「セットアップ] を選ぶ
(オレンジ色表示にする)

● ズームレバーを回すと、1/3、2/3、3/3 とページが切り換わります。

③ 項目を選ぶ

設定する

最後に必ず ▶ で決定してください。

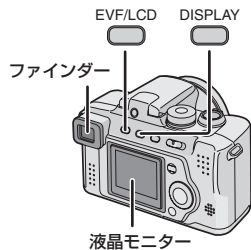
● 設定終了後、[MENU] ボタンを押して、メニューを終了してください。
撮影モード時は、シャッターボタンを半押ししても、メニューを終了することができます。

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>☼</td><td>**液晶明るさ / ファインダー明るさ**</td><td>液晶（液晶モニターに表示されている場合）またはファインダー（ファインダー内に表示されている場合）の明るさを 7 段階に調整できます。</td></tr>
<tr><td></td><td>**オートレビュー**</td><td>OFF：　撮影後に撮影画像が自動的に表示されません。
1秒：　撮影後に撮影画像が約 1 秒間表示されます。
3秒：　撮影後に撮影画像が約 3 秒間表示されます。
ZOOM：撮影後に撮影画像が約 1 秒間表示されます。そのあと、4 倍に拡大された画像が約 1 秒間表示されます。ピントの確認に便利です。連写、オートブラケット、音声付き静止画は、[ZOOM] に設定していても拡大されません。
• 動画撮影モードのときはオートレビューされません。
• 連写 [ ][ ][ ]（P44）、オートブラケット撮影 [ ]（P42）のときは、オートレビューの設定に関わらず、オートレビューされます。（拡大はされません）
• オートレビューの設定に関わらず、音声付き静止画は、音声記録中とカード記録中にオートレビューされます。（拡大はされません）
• クオリティを [TIFF] に設定して撮影したときは、カード記録終了までオートレビューされます。（拡大はされません）
• 動画撮影モード、連写、オートブラケット撮影、音声記録のとき、オートレビューの設定はできません。</td></tr>
<tr><td></td><td>**モニター優先**</td><td>[ON] に設定すると、撮影モードでファインダーを選択していた場合、レビュー時や再生時に自動的に液晶モニター表示に切り換わります。（P27）</td></tr>
</table>

項目		設定内容
	パワーセーブ	1分 /2 分 /5 分 /10 分: 設定した時間の間に何も操作しないと､パワーセーブモード(電源を自動的に切り､バッテリーの消耗を防ぐ)になります。 OFF: パワーセーブモードになりません。 • パワーセーブを解除するには、シャッターボタンを半押しするか、または電源を [OFF] にしてからもう一度 [ON] にしてください。 • AC アダプター（別売：DMW-CAC1）使用時、パソコン接続時、プリンター接続時、動画撮影 / 再生時、スライドショー中はパワーセーブは働きません。 • かんたんモード [♥]（P33）のときは [2分] に固定されます。
	操作音	：操作音なし ：操作音小 ：操作音大
	シャッター音	：シャッター音なし ：シャッター音小 ：シャッター音大
	スピーカー音量	スピーカーの音量を 7 段階に調整できます。（LEVEL6 ～ 0） • テレビと接続したとき、テレビのスピーカーの音量は変わりません。
	時計設定	日付や時刻を変更するときに設定します。（P20）
	番号リセット	次に撮影される画像のファイル番号を 0001 から記録したい場合に設定します。 （フォルダー番号が更新され、ファイル番号が 0001 から始まります） • フォルダー番号は 100 ～ 999 まで作成されます。 フォルダー番号が 999 になると番号リセットができなくなりますので、カードのデータをパソコンなどに保存してフォーマットすることをおすすめします。 • フォルダー番号を 100 にリセットするには、まずカードをフォーマット（P86）してから番号リセットを実行し、ファイル番号をリセットしてください。 そのあと、フォルダー番号のリセット画面が表示されますので、[はい] を選んでフォルダー番号をリセットしてください。 • ファイル番号、フォルダー番号について、詳しくは 90 ページを参照してください。

項目		設定内容
	設定リセット	撮影設定またはセットアップ設定をお買い上げ時の状態に戻します。 ● 再生メニューの [回転表示]（P76）もリセットされます。 ● フォルダー番号と時計設定の設定内容は変わりません。
USB	**USB モード**	USB の通信方式を設定します。 ● パソコンやプリンターに接続する前に設定してください。（P88）
HL	**ハイライト表示**	オートレビューまたはレビュー時に、白とびの起こっている部分を黒と白で点滅で表示します。（P27）
	ビデオ出力（再生モードのみ）	**NTSC**：ビデオ出力を NTSC 方式にします。 **PAL**： ビデオ出力を PAL 方式にします。（P109）
SCN	**シーンメニュー**	**OFF**： モードダイヤルをシーンモードに合わせたとき、シーンメニューは表示されず、現在選択されているシーンモードで動作します。シーンモードを変更する場合は、[MENU] ボタンを押してシーンメニューを表示させてから、お好みのシーンモードを選択してください。 **AUTO**：モードダイヤルをシーンモードに合わせたとき、シーンメニューが自動的に表示されます。お好みのシーンモードを選択してください。
	言語設定	メニュー画面は以下の２言語から設定できます。▲/▼ で言語を選び、▶ で決定してください。誤って英語に設定した場合は、メニューアイコンの [ ] を選び言語設定をしてください。 **日本語**： メニュー画面を日本語表記にします。 **ENGLISH**： メニュー画面を英語表記にします。

● [操作音]、[番号リセット]、[言語設定] は、かんたんモード [ ] にも反映されます。

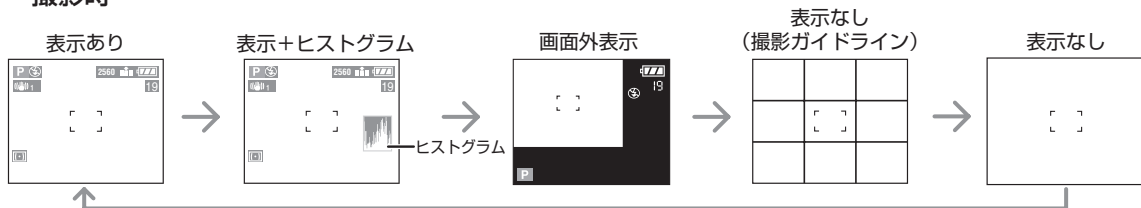
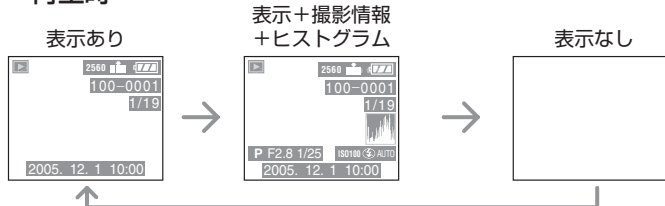
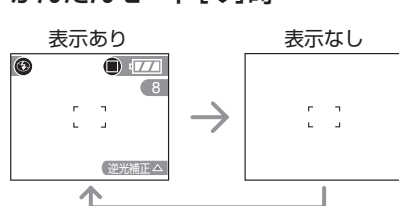
液晶モニター / ファインダーについて

①液晶モニターとファインダーを切り換える

[EVF/LCD]ボタンを押して切り換えてください。

- 液晶モニターが点灯しているときは、ファインダーは消灯し、ファインダーが点灯しているときは、液晶モニターは消灯します。

②表示を切り換える

[DISPLAY]ボタンを押して切り換えてください。

- メニュー画面表示時は[DISPLAY]ボタンは働きません。マルチ再生時（P46）および再生ズーム時（P47）は、表示ありと表示なしの切り換えになります。

■ 画面外表示について

撮影画面の外部に撮影情報が表示されますので、露出情報などにより画面をさえぎられることなく、被写体に集中して撮影することができます。

■ 視度調整について

使う前に、視力に合わせてファインダー内の表示がよく見えるようにします。

- [EVF/LCD] ボタンを押してファインダーを表示させておく。

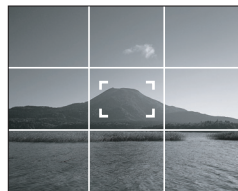
ファインダー内の表示を見て、
はっきり合うところまで
視度調整ダイヤルを回して調整する

■ モニター優先について

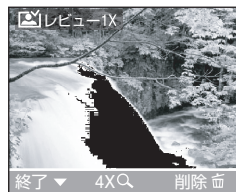
セットアップメニューの [モニター優先]（P23）を [ON] に設定すると、以下のような場合に液晶モニターが点灯します。ファインダーを点灯させて撮影したときでも液晶モニターに切り換える手間がなくなります。

- 撮影モードから再生モードに切り換えたとき
- レビューしたとき（P35）
- 再生モードで電源を入れたとき

■ 撮影ガイドラインについて

被写体を縦横の交点上やライン上に配置すると、被写体の大きさや傾き、バランスを見ながら、意図的な構図で撮影することができます。

■ ハイライト表示について

セットアップメニューの [ハイライト表示]（P22）を [ON] に設定すると、オートレビューまたはレビュー時に、白とびの起こっている部分（極端に明るい場所、光っている場所など）を黒と白の点滅で表示します。

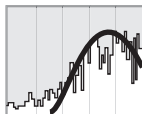
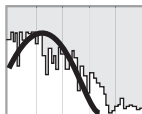
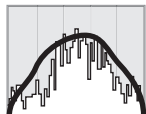
ハイライト表示なし

ハイライト表示あり

- ヒストグラムを参考に、露出をマイナス方向に補正して再度撮影すると良い結果が得られます。

■ ヒストグラムについて

- ヒストグラムとは、横軸に明るさ、縦軸にその明るさの画素数を積み上げたグラフです。
- 撮影した画像のヒストグラムの形状（グラフの分布）を見ることによって、その画像の露出状況を判断することができます。
  - ❶ 中央を中心とした山になっている場合は、暗い部分、中間調、明るい部分がバランスよく分布した適正露出の画像となります。
  - ❷ 極端に左に寄っている場合は、暗い部分が多すぎる露出アンダー気味の画像となります。夜景など黒いものが画面の大部分を占めている場合もこのようなヒストグラムになります。
  - ❸ 極端に右に寄っている場合は、明るい部分が多すぎる露出オーバー気味の画像となります。白いものが画面の大部分を占めている場合もこのようなヒストグラムになります。

ヒストグラムの表示例

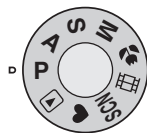
❶ 適正な明るさの画像　❷ 暗い画像

ヒストグラム

- **撮影画像とヒストグラムが以下の条件で一致しない場合はヒストグラムがオレンジ色で表示されます。**
  - フラッシュが発光するとき
  - フラッシュが閉じているとき
    - ① 暗いところで、液晶モニター / ファインダーの明るさが正確に表示できないとき
    - ② 適正露出にならないとき
- 動画撮影モード [🎞]、マルチ再生、再生ズーム時はヒストグラムは表示されません。
- 撮影時のヒストグラムはめやすです。
- 撮影時と再生時に表示されるヒストグラムは一致しない場合があります。
- パソコンの画像編集ソフトなどで表示されるヒストグラムとは一致しません。
- 白とびは、オートレビューまたはレビュー時のハイライト表示で確認してください。（P27）

撮影する（P：プログラム AE）

つづく

■ モードダイヤルについて

本機には撮影シーンに合わせて使用できるモードダイヤルがあります。お好みのモードを選んで、撮影のバリエーションを広げてお楽しみください。モードダイヤルはゆっくり確実に回してください。

P プログラム AE モード（P30）
露出をカメラにまかせて撮影します。

A 絞り優先 AE モード（P50）
設定した絞り値からシャッタースピードが自動的に決まり、撮影できます。

S シャッター優先 AE モード（P50）
設定したシャッタースピードから絞り値が自動的に決まり、撮影できます。

M マニュアル露出モード（P51）
絞り値とシャッタースピードを手動で設定して、露出を決定します。

マクロモード（P54）
被写体をアップにして撮りたいときに。

動画撮影モード（P55）
音声付き動画を撮影します。

SCN シーンモード（P57）
撮影シーンに合わせて撮りたいときに。

かんたんモード（P33）
初心者におすすめなモードです。

再生モード（P45）
撮った画像を再生します。

■ 上手に撮影するには

手持ちでぶれのない写真を撮影するために

- 両手で本機を軽く持ち、脇を閉め足を開いて構えてください。
- シャッターボタンを押す瞬間に、カメラが動かないようにお気を付けください。
- AF 補助光ランプやマイクを指などでふさがないでください。
- レンズ部に触らないでください。

液晶モニターで撮る場合

縦に構える場合

ファインダーで撮る場合

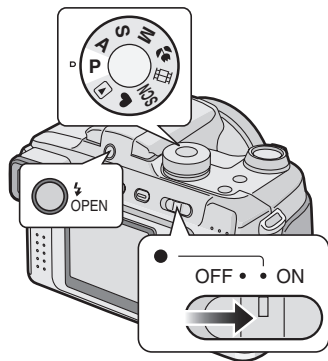
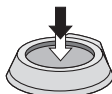
縦に構える場合

- 特に以下の場合にはシャッタースピードが遅くなって撮影されますので、シャッターを切ったあと、画像が出るまで本機を固定してください。三脚の使用をおすすめします。
  - 赤目軽減スローシンクロ（P37）
  - 夜景モード（P59）
  - 夜景ポートレートモード（P59）
  - 花火モード（P60）
  - パーティーモード（P61）
  - シャッタースピードを遅くした場合（P50、51 ）

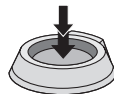
撮る・基本

モードダイヤル設定：P

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り値をカメラが自動的に設定します。

- レンズキャップを外す。
- 電源を [ON] にする。
- モードダイヤルをプログラム AE [P] モードにする。

- 電源表示ランプ（緑）が点灯します。点滅した場合は、バッテリー残量がありません。満充電されたバッテリーを入れてください。

半押しでピントを合わせる

ピントを合わせたい位置に AF エリアを合わせ、半押しする

- フォーカス表示が点灯し、シャッタースピードと絞り値が表示されます。

全押しで撮影

撮影する

	ピントが合っていないとき	ピントが合ったとき
フォーカス表示	点滅（緑）	点灯（緑）
AF エリア	白→赤	白→緑
フォーカス音	ピピピピッ	ピピッ

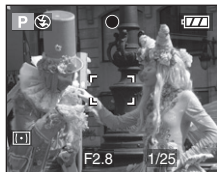
つづく

■ AF/AE ロックについて

AF :「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能です。
AE :「Auto Exposure」の略で、被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能です。

上のような構図で人物の写真を撮影したい場合、被写体がAF エリアから外れているので、そのままシャッターボタンを押すだけでは背景などにピントが合ってしまい、被写体にピントが合いません。

このようなときは、
❶被写体に AF エリアを合わせる
❷シャッターボタンを半押しし、ピントと露出を固定する
• ピントが合うと、フォーカス表示が点灯します。
❸ピントと露出を固定したまま、撮りたい構図に本機を動かす
❹シャッターボタンを全押しする

● AF/AE ロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

■ ピントについて

● ピントが合う範囲は 30 cm ～∞ (W 端時)、2 m ～∞ (T 端時) です。
● シャッターボタンを一度に全押しすると、手ぶれをしたり、ピントが合わなかったりします。
● フォーカス表示が点滅しているときは、ピントが合っていませんので、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてください。
● 何度ピントを合わせようとしても合わない場合は、電源を [OFF] にしてから、もう一度 [ON] にしてください。
● 以下のような場合はピントがうまく合いません。
❶遠くと近くのものを同時に撮る
❷汚れたガラスの向こうのものを撮る
❸キラキラと光るものが周りにある
❹暗い場所を撮る
❺動きの速いものを撮る
❻コントラスト（濃淡）の低いものを撮る
❼手ぶれしている
❽高輝度（非常に明るいもの）を撮る
置きピン（P68）、AF/AE ロックを使って撮影することをおすすめします。暗い場所では、ピント合わせのためにAF 補助光ランプ（P69）が点灯することがあります。
● フォーカス表示が出てピントが合っても、シャッターボタンを離すとピントが解除されます。もう一度半押ししてピントを合わせてください。

■ 手ぶれについて

- シャッターボタンを押し込む際に、手ぶれにお気を付けください。
- シャッタースピードが遅くなり手ぶれしやすいときは、手ぶれ警告表示が出ます。

- 手ぶれ警告表示が出るときは、三脚の使用をおすすめします。または撮る姿勢（P29）にお気を付けください。

■ 縦位置検出機能について

- 本機を縦に構えて撮影した場合、回転情報が自動的に画像に付加されて記録されます。
  [回転表示]（P76）を [ON] にしておくと液晶モニターやテレビで再生するときに回転情報に従い画像を回転して表示させることができます。
- 本機を縦に構えて撮影する場合は、「上手に撮影するには」をよくお読みください。（P29）
- 本機を上に向けたり、下に向けたりして撮影した画像では、縦位置検出機能が正しく機能しない場合があります。
- 動画撮影モード[ ]時、コマ撮りアニメ作成時は、縦位置検出機能が使えません。

■ 露出について

- 適正露出にならないときは、シャッターボタンを半押ししたときに、絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。（ただし、フラッシュ発光時は赤くなりません）

- 液晶モニター / ファインダーの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。特に暗い場所でスローシャッターで撮影するときなどは、液晶モニター / ファインダー上は暗く映りますが、実際は明るく撮影されます。
- 晴天の空や雪など、明るい被写体が画像の大半を占めると、暗く撮影される場合があります。その場合は、露出を補正してください。（P41）

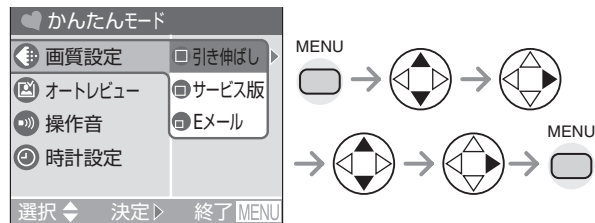
- シャッターボタンを押すと、一瞬液晶モニターの画面が明るくなったり、暗くなったりする場合があります。これはピントを合わせやすくするためで、記録される画像に影響はありません。
- 撮影前に、時計設定を確認することをおすすめします。（P20）
- パワーセーブの時間が設定されているとき（P22）は、設定された時間内に本機の操作をしないと自動的に電源が切れます。再び本機の操作をするときは、シャッターボタンを半押しするか、電源を [OFF] にしてからもう一度 [ON] にしてください。
- 被写体までの距離が撮影可能範囲外で使用しているときは、フォーカス表示が点灯していてもピントが合っていない場合があります。

かんたんモードで撮る

つづく

モードダイヤル設定：♡

初心者の人でも簡単に撮れます。必要なメニューだけが表示されるので、迷うことがありません。

■ かんたんモードのメニュー設定

項目	設定内容
画質設定	● 引き伸ばし：A3 や A4 などの大きめのサイズにプリントするときに最適です。 ● サービス版：サービスサイズ（L 版）の大きさにプリントするときに最適です。 ● E メール：Eメールの添付画像やホームページ用画像などに使用するときに最適です。
オートレビュー	● OFF: 自動的に表示されません。 ● ON: 撮影後に撮影画像が約1秒間表示されます。
操作音	● OFF: 操作音なし ● 小 ：操作音小 ● 大 ：操作音大
時計設定	日付や時刻を変更するときに設定します。(P20)

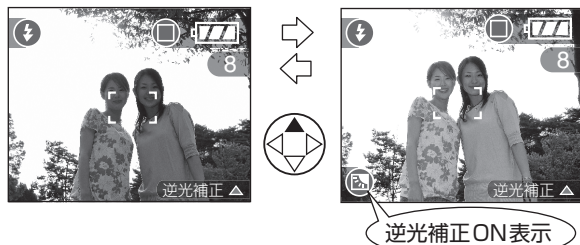
■ かんたんモード時の設定内容

かんたんモード時は、その他の設定項目が次のように固定されます。詳しくは、それぞれのページをお読みください。

項目	設定内容
撮影可能範囲	2 m ～∞（T 端時） 5 cm ～∞（W 端時）
液晶明るさ（P22）	標準 [0]
パワーセーブ（P22）	2 分
セルフタイマー（P40）	10 秒
手ぶれ補正(P43)	MODE1
連写速度（P44）	低速（2 コマ / 秒）
ホワイトバランス(P63)	AUTO
ISO 感度（P65）	AUTO
画質設定（記録画素数 / クオリティ）（P65、66 ）	● 引き伸ばし：2560×1920 画素 / ファイン ● サービス版：1600×1200画素/スタンダード ● E メール：640×480画素 /スタンダード
測光モード（P66）	評価測光
AF モード（P67）	1 点
AF 駆動（P68）	
AF 補助光（P69）	ON

撮る・基本

■ 逆光補正機能

逆光とは、被写体の後ろ側から光が当たることです。
このとき、人物など被写体が暗く写ります。
▲ を押すと、[ ]（逆光補正 ON 表示）が表示され、逆光補正が働きます。画像全体を明るくすることにより、逆光を補正します。

- [ ] が表示されているときに ▲ を押すと、[ ] が消え、逆光補正が解除されます。
- 逆光補正機能使用時は、フラッシュを使用することをおすすめします。

- [操作音]、[時計設定]のかんたんモードでの設定内容は、他の撮影モードにも反映されます。
- かんたんモード時は、次の設定ができません。
  - モニター優先
  - 番号リセット
  - 設定リセット
  - USB モード
  - ハイライト表示
  - ビデオ出力
  - 言語設定

  ただし、セットアップメニュー（P22）での [番号リセット]、[言語設定] は、かんたんモードにも反映されます。
- かんたんモード時は、次の機能が使えません。
  - ホワイトバランス微調整
  - 露出補正
  - オートブラケット
  - 記録画素数
  - クオリティ
  - 音声記録
  - AF 連続動作
  - フラッシュ発光量調整
  - デジタルズーム
  - コマ撮りアニメ
  - カラーエフェクト
  - 画質調整

ただし、[記録画素数] と [クオリティ] は、[画質設定] の設定に対応しています。

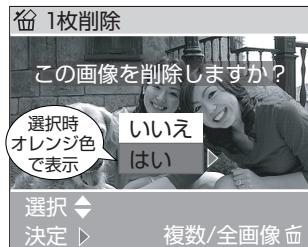
撮影した画像を確認する（レビュー）

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 SCN ♥

- ▼ を押すと最後に撮影した画像が約 10 秒間表示されます。
- シャッターボタンを半押し、または▼を押すとレビューが解除されます。
- ◀/▶ を押すと前後の画像を確認することができます。
- 撮影した画像が明るすぎたり、暗すぎたりしたときは、露出を補正してください。（P41）

位置を移動する

- 倍率を変えたり、表示する位置を移動させると、約 1 秒間ズーム位置表示が表示され、拡大部分の位置を確認することができます。

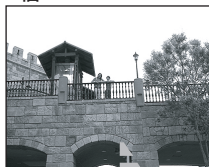
撮影した画像をレビュー中に削除することもできます（クイック削除）

- 画像は一度削除すると元に戻すことができません。よく確認してから削除してください。
- 複数・全画像削除もできます。削除の方法については48 ページをお読みください。

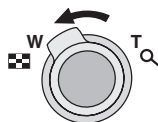
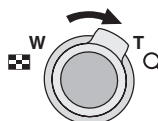
撮る・基本

大きく（望遠：T）または広く（広角：W）撮る

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 🎞 SCN ♥

光学ズーム 12 倍までの範囲で、人や物を大きく撮ったり風景などを広角に撮ることができます。

1倍

6倍

12倍

広く(広角)撮る

大きく(望遠)撮る

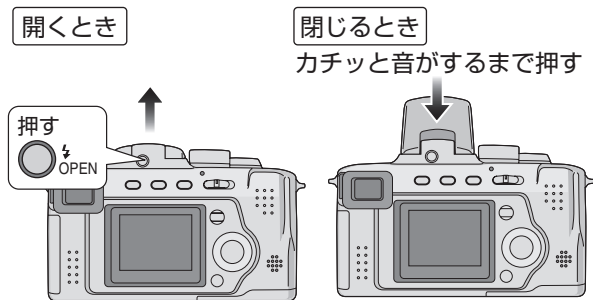
- 電源 [ON] 時は W 端（1 倍）です。
- 画像はレンズによってわずかにゆがんで撮影されます。
  これをディストーション（歪曲収差）といいます。
  広角にして近づくほどディストーションは大きくなります。
- ピントを合わせたあと、ズーム操作をした場合は、もう一度ピントを合わせ直してください。
- ズーム倍率はめやすです。
- ズーム位置によって、レンズが伸び縮みします。
- ズーム中に、レンズの動きを妨げないようにお気を付けください。
- 動画撮影の場合、撮影を開始したときのズーム倍率に固定されます。
- ズームレバーを操作すると、多少音がしたり振動したりしますが、故障ではありません。

フラッシュを使って撮る

つづく

モードダイヤル設定：P A S M (マクロ) SCN (ハート)

撮影状況に応じてフラッシュを使って撮影できます。

■ フラッシュを開く / 閉じる

- 使わないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。
- フラッシュが閉じているときは、発光禁止[(発光禁止)]に固定されます。

■ フラッシュ設定を切り換える

撮影内容に合わせて、フラッシュの発光のしかたを設定します。

選択できるフラッシュ設定については、次ページの「撮影モード別フラッシュ設定」をご覧ください。

項目	設定内容
⚡A：オート	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。
⚡A◎： 赤目軽減オート （白色）	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。そのときフラッシュが予備発光し、人の瞳が赤く写る（赤目現象）のをおさえ、そのあと撮影のために再び発光します。 ● **フラッシュが2回発光します。1回目は予備発光ですので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。** ● **暗い場所で人物を撮影するときなどに適しています。**
⚡： 強制発光 ⚡◎： 赤目軽減強制発光	フラッシュを強制的に発光させます。 ● **逆光時や蛍光灯などの照明の下に被写体があるときなどに適しています。** ● **シーンモード（P57）のパーティーモード時のみ、赤目軽減強制発光になります。**
⚡S◎： 赤目軽減スローシンクロ （オレンジ色）	フラッシュ発光とともにシャッタースピードを遅くして背景の夜景なども明るく写します。同時に赤目現象をおさえます。 ● **夜景を背景に人物を撮影するときなどに適しています。**
(発光禁止)： 発光禁止	どのような撮影状況でもフラッシュが発光しません。 ● **フラッシュ禁止の場所で撮影するときなどに適しています。**

撮る・基本

■ 撮影モード別フラッシュ設定

設定できるフラッシュ設定は、撮影モードによって、異なります。（○ : 設定可、× : 設定不可）

	⚡A	⚡A◎	⚡	⚡◎	⚡S◎	🚫⚡
P	○	○	○	×	○	○
A	○	○	○	×	○	○
S	○	○	○	×	×	○
M	○	○	○	×	×	○
[マクロ]	○	○	○	×	○	○
[動画]	×	×	×	×	×	○
[ポートレート]	○	○	○	×	×	○
[スポーツ]	○	○	○	×	×	○
[風景]	×	×	×	×	×	○
[夜景]	×	×	×	×	×	○
[夜景ポートレート]	×	×	×	×	○	○
[流し撮り]	○	○	○	×	×	○
[花火]	×	×	×	×	×	○
[パーティー]	×	×	×	○	○	○
[雪]	○	×	○	×	×	○
[ベビー]	×	○※	○	×	×	○

※逆光補正時は設定できません。

■ フラッシュで撮影できる範囲

ISO 感度	フラッシュ調光範囲	
	W 端時	T 端時
AUTO	約 30 cm ～ 4.5 m	約 30 cm ～ 3.8 m
ISO80	約 30 cm ～ 2.0 m	約 30 cm ～ 1.7 m
ISO100	約 30 cm ～ 2.2 m	約 30 cm ～ 1.9 m
ISO200	約 40 cm ～ 3.1 m	約 40 cm ～ 2.6 m
ISO400	約 60 cm ～ 4.5 m	約 60 cm ～ 3.8 m

- ピントが合う範囲については、31 ページをお読みください。
- ISO 感度については 65 ページをお読みください。

■ フラッシュモード別のシャッタースピード

フラッシュモード	シャッタースピード
🚫⚡ : 発光禁止	1/4 ～ 1/2000 秒 8 ～ 1/2000 秒（夜景モード時）
⚡A : オート	1/60 ～ 1/2000 秒
⚡A◎ : 赤目軽減オート	1/60 ～ 1/2000 秒
⚡ : 強制発光 ⚡◎ : 赤目軽減強制発光	1/60 ～ 1/2000 秒
⚡S◎ : 赤目軽減スローシンクロ	1 ～ 1/2000 秒

- 絞り優先 AE、シャッター優先 AE、マニュアル露出については、53 ページをお読みください。

- フラッシュ使用時は ISO 感度を [AUTO] に設定すると、自動的に [ISO100] ～ [ISO400] まで高くしていきます。
- ノイズが気になるときは、ISO 感度を低くする（P65）または [画質調整] を [ナチュラル] にする（P70）ことをおすすめします。
- 動画モード [🎞]、シーンモード（P57）の風景、夜景、花火のときは、フラッシュを開けていても発光禁止 [🚫⚡] に固定されます。

■ フラッシュの発光量を調整する

被写体が小さい、反射率が極端に高い、低いときは、フラッシュの発光量を調整してください。

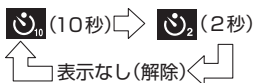
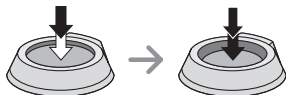
▲ ボタンを数回押し、[フラッシュ発光量調整] を表示させ、フラッシュの発光量を決める

- −2 EVから+2 EVの範囲で1/3 EVごとに調整できます。
- 設定したフラッシュ発光量は、電源を [OFF] にしても記憶しています。
- 動画モード [ ]、かんたんモード [ ]、シーンモード (P57) の夜景、風景、花火のときは、フラッシュ発光量調整はできません。

■ フラッシュ使用時は・・・

- **近くでフラッシュ発光部を直接見ないでください。**
- **フラッシュに物を近付けると熱や光で変形、変色する場合があります。**
- **フラッシュ発光部を指などでふさがないでください。**
- フラッシュ調光範囲外で撮影すると、適正露出にならず、白っぽく撮れる場合や暗くなる場合があります。
- 撮影を繰り返すと、フラッシュが発光しても撮影できない場合があります。カードアクセス表示が消えてから撮影してください。
- 手ぶれ警告表示が出ているときは、フラッシュの使用をおすすめします。
- 連写およびオートブラケット設定時でフラッシュが発光する場合、1枚しか撮影できません。
- フラッシュが発光する場合、シャッターボタンを半押ししたときにフラッシュマークが赤に変わります。
- フラッシュ充電中は、フラッシュマークが赤に点滅し、シャッターボタンを全押ししても、撮影できません。
- **レンズフードが付いた状態でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がフードでさえぎられることがあります。**
- 赤目軽減オートなどの予備発光の直後にフラッシュを閉じないでください。故障の原因となります。
- フラッシュ撮影すると、フラッシュ光に適したホワイトバランスが自動的に設定されますが [(晴天)、 (フラッシュ) は除く]、フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。
- シャッタースピードが速い場合は、フラッシュの効果が十分に得られない場合があります。

セルフタイマーを使って撮る

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 SCN ♥

セルフタイマーを切り換える

半押しでピントを合わせる　全押しで撮影

撮影する

- セルフタイマーランプが点滅し、10 秒（または 2 秒）後に撮影動作が開始されます。

セルフタイマーランプ

- セルフタイマー動作中に[MENU]ボタンを押すと、セルフタイマー設定が解除されます。

- セルフタイマーを 2 秒に設定すると、三脚使用時などシャッターボタンを押したときのカメラぶれを防ぐのに便利です。
- 一度に全押しすると、撮影直前にピントを自動的に合わせます。このとき、暗い場所ではセルフタイマーランプが点滅したあと、ピント合わせのために AF 補助光（P69）として明るく点灯することがあります。
- かんたんモード [♥] のときは、セルフタイマーが 10 秒に固定されます。
- 連写のときにセルフタイマーを設定すると、１０秒または２秒後に連写を行います。連写枚数は 3 枚固定になります。
- セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。

露出を補正して撮る

モードダイヤル設定：P A S 🌷 🎞 SCN

被写体と背景の明るさに大きく差がある場合など、適正な露出が得られないときに補正します。

露出オーバー

適正露出

露出をプラス方向に
補正してください。

露出アンダー

▲ボタンを数回押し、[露出補正] を表示させ、露出を補正する

- −2 EVから+2 EVの範囲で1/3 EVごとに補正できます。

- EVとはExposure Valueの略で、露出量を表す単位です。絞り値またはシャッタースピードが変化するとEVが変化します。
- 被写体の明るさによっては、露出補正できない範囲があります。
- 露出補正値は、液晶モニター/ファインダーの左下に表示されます。
- 設定した露出補正量は、電源を [OFF] にしても記憶しています。

露出を自動的に変えながら撮る（オートブラケット撮影）

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 SCN

1 回シャッターを押すと、露出の補正幅に従って自動的に 3 枚撮影します。
露出が異なる 3 枚の画像の中からお好きな露出の画像を選ぶことができます。

オートブラケット ±1 EVの場合

±0 EV

1 枚目

−1 EV

2 枚目

＋1 EV

3 枚目

▲ ボタンを数回押し、[オートブラケット] を表示させ、露出の補正幅を決める

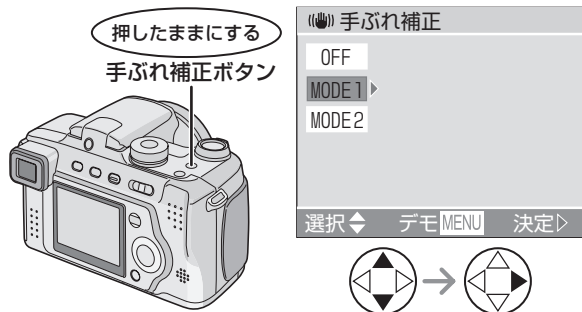
- −1 EV から＋1 EV の範囲で 1/3 EV ごとに選択できます。
- オートブラケット撮影をしない場合は [OFF] を選んでください。
- オートブラケットを設定すると、液晶モニター / ファインダーの左下に、オートブラケットのアイコンが表示されます。

- 残り枚数が 2 枚以下の場合、オートブラケット撮影はできません。
- 露出補正をしてからオートブラケット撮影をする場合は、補正された露出値を基準にして撮影されます。露出が補正されているときは、画面左下に露出補正値が表示されます。
- フラッシュが発光する場合は 1 枚しか撮影できません。
- オートブラケットを設定すると、音声付き静止画を撮影することができません。
- クオリティを ［TIFF］ に設定すると、オートブラケット撮影できません。
- 連写とオートブラケットが同時に選ばれている場合は、オートブラケットが優先されます。
- 被写体の明るさによっては、オートブラケットで露出補正できない場合があります。
- オートブラケットを設定すると、オートレビューの設定に関わらずオートレビューされます。（拡大はされません）
また、このときセットアップメニューでオートレビューの設定はできません。

手ぶれを補正して撮る

モードダイヤル設定： P A S M 🌷 🎞 SCN

手ぶれを感知して補正します。特に望遠を使って撮影する場合や、シャッタースピードが遅くなる室内での撮影時に有効です。

手ぶれ補正ボタンを押したままにすると、手ぶれ補正選択メニューが表示されます。

手ぶれ補正モードを選択してください。

- [MODE1] ((手))1：
  撮影モード時、常時手ぶれを補正します。望遠などで構図を決めて撮影するときに安定して撮ることができます。
- [MODE2] ((手))2：
  シャッターが切れる瞬間のみ手ぶれを補正します。より高い補正効果が得られます。
- [OFF] ((手))OFF：
  意図的にぶれのある画像を撮影したいときなどに設定します。

■ 手ぶれ補正デモ（デモンストレーション）

[MENU] ボタンを押すと、手ぶれ補正デモが表示され、終了すると手ぶれ補正モード選択メニューに戻ります。途中で終了する場合は、[MENU] ボタンを押してください。

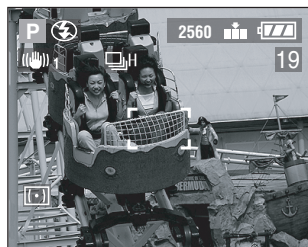
手ぶれ補正デモ表示中は、W 端（1 倍）に固定され、ズーム操作はできません。また、撮影もできません。

- 以下の場合、手ぶれ補正が効きにくくなることがあります。
  - 手ぶれが大きいとき
  - デジタルズーム領域
  - 動きのある被写体を追いながら撮影するとき
  - 夜景撮影など、シャッタースピードが極端に遅くなるとき

  シャッターボタンを押し込む際は、手ぶれにお気を付けください。
- かんたんモード [❤] では [MODE1] に固定され、手ぶれ補正選択メニューは表示されません。
- 動画撮影モード [🎞] 時は、[MODE2] に設定できません。

撮る・基本

連写にして撮る

モードダイヤル設定：P A S M SCN ♥

連写設定を切り換えて撮影する

- シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。
- セルフタイマー使用時の連写枚数は、3 枚固定になります。
- 連写設定していると、音声付き静止画を撮影できません。
- フラッシュが発光する場合は 1 枚しか撮影できません。
- 連写とオートブラケットが同時に選ばれている場合は、オートブラケットが優先されます。
- クオリティを [TIFF] に設定すると、連写できません。

■ 連写枚数

		H (高速)	L (低速)	∞ (フリー)
連写速度※		3 コマ / 秒	2 コマ / 秒	約 2 コマ / 秒
連写枚数	ファイン	最大 4 コマ	最大 4 コマ	カードの空き容量による
	スタンダード	最大 7 コマ	最大 7 コマ	カードの空き容量による

※シャッタースピードが 1/60 より速く、フラッシュを発光させないとき

- **フリー連写について**
  - カードの容量がいっぱいになるまで撮影できます。
  - 途中から連写速度が遅くなります。
- かんたんモード [♥] のときは、低速に固定されます。(P33)

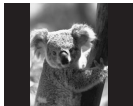
- 露出、ホワイトバランスの制御のしかたは、連写設定によって変わります。高速 [H] 設定時は、最初の 1 枚に対する設定に固定されます。(撮影速度優先)
  低速 [L] およびフリー [∞] 設定時は、1 枚ごとに露出、ホワイトバランスを調整します。
- 連写を設定すると、オートレビューの設定に関わらずオートレビューされます。(拡大はされません) セットアップメニューでオートレビューの設定はできません。

画像を再生する（▶：再生モード）

モードダイヤル設定：▶

前の画像へ 次の画像へ

画像を送る

- 最後に撮影した画像の次は、最初の画像になります。
- [回転表示]を[ON]にしている場合、本機を縦に構えて撮影した画像は縦で再生されます。（P76）

■ 早送り / 早戻しをする

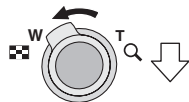
再生中に ◀/▶ を押したままにすると、ファイル番号とページ番号のみが更新されます。再生したい画像の番号が表示されたときに ◀/▶ を離すと、その番号の画像が表示されます。

▶：早送り /◀：早戻し

- ◀/▶を押したままにすると、一度に送る画像枚数が増加します。撮影枚数によって送り枚数は異なります。
- ◀/▶を離すと、もう一度1枚単位から開始します。
- 撮影モード時のレビュー再生や、マルチ再生では、1枚単位でしか早送り / 早戻しはできません。
- 大きな単位で画像を早送り / 早戻しをしているときは、再生したい画像の手前で一度 ◀/▶ を離すと、小さい単位で早送り / 早戻しできます。

- 本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格DCF（Design rule for Camera File system）に準拠しています。
- パソコンでフォルダー名やファイル名を変更すると再生できない場合があります。
- 本機で再生できるファイル形式はJPEGです。（JPEG形式でも再生できないものもあります）
- 他機で撮影された静止画を再生すると、画質が劣化したり、再生できない場合があります。
- 規格外のファイルを再生したときは、フォルダー・ファイル番号が[—]で表示され、画面が黒くなる場合があります。

画像を９画面表示にする (マルチ再生)

モードダイヤル設定：

９画面表示にする

画像を選ぶ

■ 1 画面表示に戻すには

[ ] の方に回すか、[MENU] ボタンを押してください。

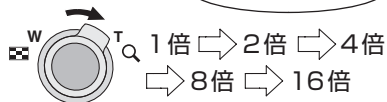
- オレンジ色で表示された番号の画像が 1 画面表示されます。

■ マルチ再生中に画像を削除する

[ ] ボタンを押してください。
確認画面が表示されますので、▼ ボタンで [はい] を選び、▶ ボタンを押してください。

- [回転表示] を [ON] にしていても回転表示されません。(P76)

再生画面を拡大する（再生ズーム）

モードダイヤル設定：

ズームレバーを [ ] 側に回して画像を拡大する

- 拡大したあと、ズームレバーを [ ] 側に回すと、倍率が小さくなります。[ ] 側に回すと大きくなります。
- 倍率を変えると、約 1 秒間ズーム位置表示が表示され、拡大部分の位置を確認することができます。
- [MENU] ボタンを押すと、1 倍に戻ります。

位置を移動させる

- 表示する位置を移動させると、約 1 秒間ズーム位置表示が表示されます。

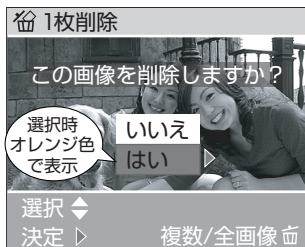
■ 再生ズーム中に画像を削除する

[ ] ボタンを押してください。
確認画面が表示されますので、▼ ボタンで [はい] を選び、▶ ボタンを押してください。

- 回転された画像をズームにすると回転表示されません。（P76）
- 再生ズームは、拡大するほど画質が劣化します。
- 他機で撮影した画像は再生ズームできない場合があります。
- 通常の再生で液晶モニター / ファインダーの表示を「表示なし」にしていても（P26）、再生ズーム時は、倍率や操作方法が表示されます。[DISPLAY] ボタンを押すと、表示ありと表示なしを切り換えることができます。1 倍に戻すと、通常の再生での表示に戻ります。

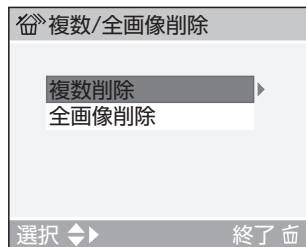
画像を削除する

モードダイヤル設定：▶

1 枚削除

画像を選ぶ

削除する

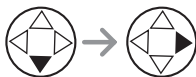
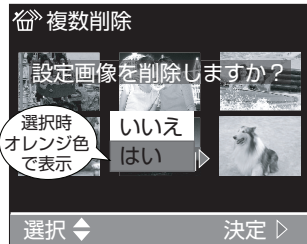
- 画像削除中に[]が画面に表示されます。

複数 / 全画像削除

[複数削除] または [全画像削除] を選ぶ

- [全画像削除] を選んだ場合は、③の操作をしてください。

2 [複数削除] 選択時のみ

画像を選ぶ

- この手順を繰り返します。
- 設定後、[ ] ボタンで決定してください。
- 設定した画像に [ ] が表示されます。もう一度 ▼ ボタンを押すと設定が解除されます。
- プロテクトされていると、設定した画像に [ ] アイコンが赤く点滅し、画像を削除できません。プロテクト設定を解除しておいてください。(P78)

削除する

([複数削除] 選択時の画面)

- [全画像削除]の場合、「全ての画像を削除しますか？」とメッセージが表示されます。

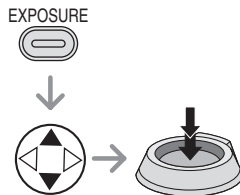
- 画像は一度削除すると元に戻すことができません。よく確認してから削除してください。
- 削除中は電源を[OFF]にしないでください。
- 削除するときは、十分に充電されたバッテリー（P12）または AC アダプター（別売：DMW-CAC1）を使用してください。
- [複数削除]で一度に削除できるのは５０枚までです。
- [全画像削除] をしても、プロテクト [ ] された画像（P78）、DCF 規格外のファイル（P45）は削除されません。

絞り / シャッタースピードを決めて撮る

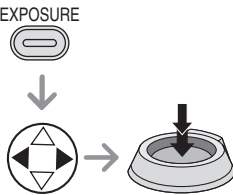
（A：絞り優先 AE/S：シャッター優先 AE）

モードダイヤル設定：A

背景までピントを合わせて撮りたいときは絞り値を大きく、背景をぼかして撮りたいときは絞り値を小さくしてください。

絞り値を設定して撮影する

モードダイヤル設定：S

動きを止めて撮りたいときはシャッタースピードを速く、動きを表現したいときにはシャッタースピードを遅くしてください。

シャッタースピードを設定して撮影する

- 設定可能な絞り値とシャッタースピードについては、53 ページをお読みください。
- ピントが合う範囲は 5 cm ～∞（W 端時）、2 m ～∞（T 端時）になります。
- 液晶モニター/ ファインダーの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。レビューまたは再生モードで確認してください。
- ISO感度の[AUTO]の設定はできません。([AUTO]から絞り優先AEまたはシャッター優先AEに切り換えた場合は、自動的に [ISO100] になります）
- シャッター優先 AE のときは、赤目軽減スローシンクロ [⚡S◎] の設定はできません。
- 明るすぎる、暗すぎるなど、適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値が赤色になります。
- 絞り優先 AE のとき、明るすぎる場合は絞り値を大きくし、暗すぎる場合は絞り値を小さくしてください。
- シャッタースピードが遅いときは、三脚を使うことをおすすめします。

手動で露出を合わせて撮る（M：マニュアル露出）

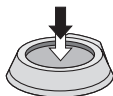
つづく

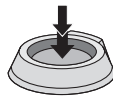
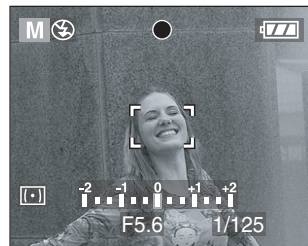
モードダイヤル設定：

絞り値とシャッタースピードを手動で設定して露出を決定します。

絞り値とシャッタースピードを設定する

絞り値を設定します

シャッタースピードを設定します

シャッターボタンを半押しする

- 露出の状態のめやすを示す、マニュアル露出アシストが約 10 秒間表示されます。
- 適正露出にならない場合は、絞り値とシャッタースピードを設定し直してください。

撮影する

■ マニュアル露出アシストについて

-2 -1 0 +1 +2	適正露出になります。
-2 -1 0 +1 +2	シャッタースピードを速くするか、絞り値を大きくしてください。
-2 -1 0 +1 +2	シャッタースピードを遅くするか、絞り値を小さくしてください。

- マニュアル露出アシストはめやすです。レビューで確認しながら撮影することをおすすめします。

- 設定可能な絞り値とシャッタースピードについては、53 ページをお読みください。
- マニュアル露出のとき以下の設定はできません。
  - フラッシュの赤目軽減スローシンクロ [ ]（P37）
  - ISO 感度の [AUTO] 設定（P65）（[AUTO] からマニュアル露出に切り換えた場合は、自動的に [ISO100] になります）
  - 露出補正（P41）
- ピントが合う範囲は 5 cm ～∞（W 端時）、2 m ～∞（T 端時）になります。
- 液晶モニター / ファインダーの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。レビューまたは再生モードで確認してください。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値が赤色になります。

シャッタースピードと絞り値について

■ シャッター優先 AE

設定可能なシャッタースピード(秒)(1/3 EV ごと)				本機で設定される絞り値
8	6	5	4	F2.8 ～ F8.0
3.2	2.5	2	1.6	
1.3	1	1/1.3	1/1.6	
1/2	1/2.5	1/3.2	1/4	
1/5	1/6	1/8	1/10	
1/13	1/15	1/20	1/25	
1/30	1/40	1/50	1/60	
1/80	1/100	1/125	1/160	
1/200	1/250	1/320	1/400	
1/500	1/640	1/800	1/1000	
1/1300				F4.0 ～ F8.0
1/1600				F5.6 ～ F8.0
1/2000				F8.0

■ 絞り優先 AE

設定可能な絞り値(1/3 EV ごと)			本機で設定されるシャッタースピード(秒)
F8.0			1 ～ 1/2000
F7.1	F6.3	F5.6	1 ～ 1/1600
F5.0	F4.5	F4.0	1 ～ 1/1300
F3.6	F3.2	F2.8	1 ～ 1/1000

■ マニュアル露出

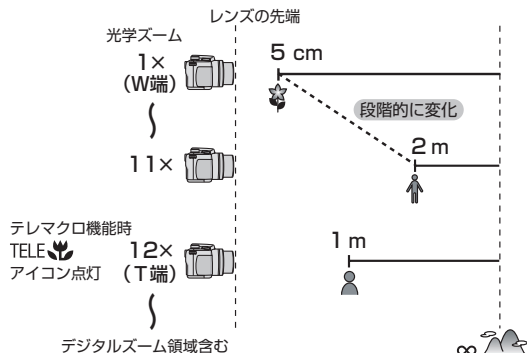
設定可能な絞り値(1/3 EV ごと)	設定可能なシャッタースピード(秒)(1/3 EV ごと)
F2.8 ～ F3.6	8 ～ 1/1000
F4.0 ～ F5.0	8 ～ 1/1300
F5.6 ～ F7.1	8 ～ 1/1600
F8.0	8 ～ 1/2000

- 上記表の絞り値は、ズーム W 端時の値です。
- ズーム位置によっては、選べない絞り値があります。

接近して撮る（ ：マクロモード）

モードダイヤル設定：

花などをアップにして撮りたいときに合わせてください。ズームをもっとも広角（W 端：1 倍）にすると、レンズから 5 cm まで接近して撮影できます。望遠側にズームすると、接近できる距離は段階的に変化し、近接して撮影できる距離は最大 2 m になります（11 倍時）。

■ ピントの合う範囲

■ テレマクロ機能

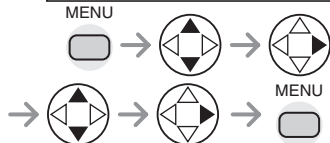
もっとも望遠（T 端：12 倍）にすると、レンズから 1 m まで接近して撮影できます。（画面に [TELE] アイコンが表示されます）地面近くに咲いている花などを、立ったまま大きく撮影したり、近づくと逃げる可能性のある昆虫などを少し離れた位置から大きく撮影したりするのに便利です。

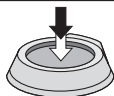
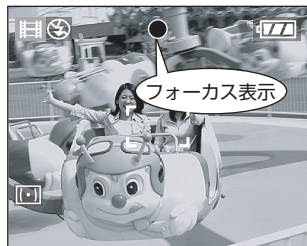
- 三脚の使用をおすすめします。
- 被写体が近い場合は、フォーカスの合っている範囲（被写界深度）が非常に狭くなりますので、フォーカス後、カメラと被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなります。
- テレマクロモード時は、被写界深度が極端に狭くなり手ぶれも起こしやすくなるので、三脚が使用できない場合は、被写界深度の確保と手ぶれ補正性能の確保のために、絞り値が F4.0 以上、シャッタースピードが 1/125 秒以上となるような明るさでの撮影をおすすめします。
- 被写体までの距離が撮影可能範囲外で使用しているときは、フォーカス表示が点灯していても、ピントが合っていない場合があります。
- フラッシュで撮影できる範囲は、約 30 cm ～ 4.5 m です。（W 端、[ISO AUTO] 設定時）
- テレマクロ機能を使って光学１２倍ズーム時に２ m より近い距離にピントを合わせたあと、ズームを 11 倍以下の倍率方向に動かすと、ピントが合っていない状態になります。その場合は再度シャッターボタンを半押しするなどしてピントを合わせ直してください。
- マクロモードで近距離を撮影する場合は、画像の周辺部の解像度が若干低下する場合がありますが、故障ではありません。

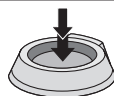
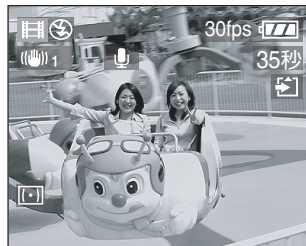
動画を撮る（🎞：動画撮影モード）

つづく

モードダイヤル設定：🎞

音声付き動画を撮りたいときに合わせてください。

[動画コマ数]を選び、設定する

- [30 fps]：動画をよりなめらかに撮影することができます。
- [10 fps]：なめらかさには欠けますが、長時間撮影することができます。また、ファイルサイズが小さいので、メールなどに添付するのに適しています。
- 設定終了後、シャッターボタンを半押しまたは［MENU］ボタンを押して、メニューを終了します。

シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、フォーカス表示が点灯します。

撮影を開始する

- 残り撮影時間（めやす）が表示されます。
- 本機の内蔵マイクより、音声も同時に記録されます。
- もう一度シャッターボタンを全押しすると、撮影が終了します。
- 記録途中でカードのメモリーがいっぱいになると、自動的に撮影が終了します。

■ 撮影可能時間

SD メモリーカード容量	動画コマ数	
	10 fps	30 fps
16 MB	約 75 秒	約 25 秒
32 MB	約 160 秒	約 55 秒
64 MB	約 350 秒	約 120 秒
128 MB	約 720 秒	約 240 秒
256 MB	約 1440 秒	約 480 秒
512 MB	約 2870 秒	約 980 秒
1 GB	約 5700 秒	約 1950 秒

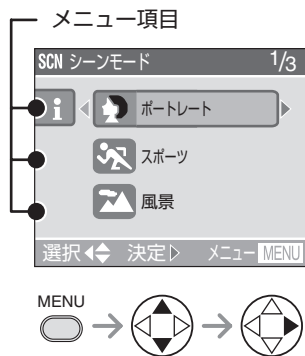
- 残り撮影可能時間が液晶モニター / ファインダーに表示されます。
- 撮影可能時間はめやすです。

- 記録画素数は 320×240 画素に固定されます。
- 音声なしで動画を記録することはできません。
- マルチメディアカードを使う場合、動画記録後、カードアクセス表示がしばらく出る場合がありますが、異常ではありません。
- オートフォーカス・ズーム・絞り値は、撮影を開始したとき（最初のフレーム）の設定値に固定されます。
- カードの種類によっては、動画撮影のときに途中で撮影が終了する場合があります。
- 本機で撮影された動画を他機で再生すると、画質、音質が劣化したり、再生できない場合があります。
- 本機で撮影された [30 fps] の動画は、[30 fps] に対応していない機種では再生できません。
- 動画撮影モード[ ]のときは、縦位置検出機能とレビューが使えません。
- 手ぶれ補正の [MODE2] は使えません。

シーンモードで撮る

つづく

モードダイヤル設定：SCN

- モードダイヤルをシーンモードに合わせて、シーンメニューを表示させてください。
  セットアップメニューの［シーンメニュー］(P22）を[OFF］に設定している場合、[MENU］ボタンを押してシーンメニューを表示させてください。

- ◀ を押すと、各メニューの説明が表示されます。
  (▶ を押すとシーンメニューに戻ります)
- ズームレバーを回すと、1/3、2/3、3/3 とページが切り換わります。
- シーンメニューが表示されているときに[MENU]ボタンを押すと、撮影メニュー(P62)とセットアップメニュー(P22）を設定することができます。

：ポートレートモード（P58）

：スポーツモード（P58）

：風景モード（P58）

：夜景モード（P59）

：夜景ポートレートモード（P59）

：流し撮りモード（P60）

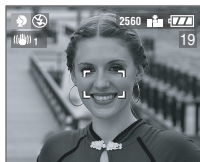
：花火モード（P60）

：パーティーモード（P61）

：雪モード（P61）

- シーンモードで用途に合わない場面を撮影すると、画像の色合いが変わる場合があります。
- 撮影する画像の明るさを変更したいときは、露出を補正してください。(P41）
- シーンモード時は次の設定ができません。
  - ホワイトバランス（P63）
  - ISO 感度（P65）
  - 測光モード（P66）
  - カラーエフェクト（P70）
  - 画質調整（P70）

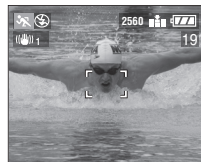
ポートレートモード

背景をぼかし、人物を引き立て、肌の色を健康的に出すように露出と色調を調整します。

■ **撮影のテクニック**

ズームの位置はできるだけ T 側（望遠）にし、被写体までの距離を近くし、遠くにある背景を選ぶとより効果が出ます。

- 昼間の屋外での撮影に適しています。
- ISO感度は[AUTO]に固定されます。

スポーツモード

屋外のスポーツシーンなど、動きの速い場面を撮りたいときに合わせてください。

■ **撮影のテクニック**

動きを止めて撮影するために、速めのシャッタースピードに設定されます。できるだけ天気の良い昼間に撮影するのが効果的です。

- 5 m 以上離れた昼間の屋外で撮影するのに適しています。
- ISO感度は[AUTO]に固定されます。

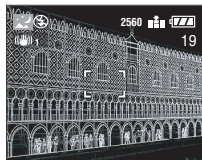
風景モード

広がりのある風景を撮りたいときに合わせてください。
遠くにある被写体に優先的にピントを合わせます。

- ピントが合う範囲は５ m ～∞です。
- ISO感度は[AUTO]に固定されます。
- フラッシュは発光禁止 [ ] に固定されます。
- AF補助光の設定は無効になります。

つづく

夜景モード

夜景を撮りたいときに合わせてください。シャッタースピードを遅くすることにより、夜景が鮮やかになります。

■撮影のテクニック

- シャッタースピードは最大約８秒になるので、三脚を使用してください。

- ピントが合う範囲は５ m～∞です。
- 撮影後に、シャッターが閉じたまま（最大約８秒）になることがありますが、信号処理のためで、異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。
- ISO 感度は [ISO80] に固定されます。
- フラッシュは発光禁止 [⊛] に固定されます。
- AF補助光とAF連続動作の設定は無効になります。

夜景ポートレートモード

夜景を背景に人物などを撮りたいときに合わせてください。フラッシュを使い、シャッタースピードを遅くすることにより、人物とともに背景も見た目に近い明るさになります。

■撮影のテクニック

- フラッシュを開いてください。（P37）
- シャッタースピードが遅くなるため、三脚の使用をおすすめします。
- 被写体の人に、撮影後約１秒間は動かないように伝えてください。
- ズームレバーをＷ端（広角）にして、被写体から約 1.5 ｍほど離れたところから撮影することをおすすめします。

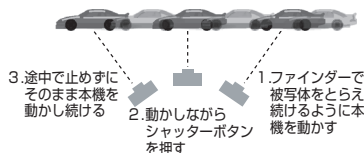
- ピントが合う範囲は 1.2 m ～ 5 m（W 端）2 m ～ 5 m（T 端）です。（フラッシュの調光範囲については 38 ページをお読みください）
- 使わないときは、必ずフラッシュを閉じておいてください。
- 撮影後に、シャッターが閉じたまま（最大約 1 秒）になることがありますが、信号処理のためで、異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。
- フラッシュ設定時は、赤目軽減スローシンクロ [⚡S◎] に固定され、常に発光します。
- ISO感度は[AUTO]に固定されます。
- AF連続動作の設定は無効になります。

流し撮りモード

ランナーや車のように、一定の方向に向かって動いている被写体の動きに合わせて本機を振りながら撮影すると、被写体の背景が流れて写ります。この効果を「流し撮り」といいます。このモードに合わせると、流し撮りの効果を得やすくなります。

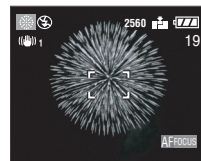
■ 流し撮りのテクニック

流し撮りを成功させる（被写体に追いついたり、ぶれを防ぐ）には、テクニックが必要です。

- 本機だけで追わずに、体を正面に向け、脇をしめ、腰をひねりながら体全体を使って被写体を追いかけてください。
- 被写体が正面に来たときに、シャッターボタンを押してください。シャッターボタンを押すときにも本機の振りを止めないようにしてください。

- 以下のことにもお気を付けください。
  - ファインダーを使う（P26）
  - 動きの速い被写体を選ぶ
  - 置きピン（P68）を使う
  - 連写（P44）と合わせて撮影する（あとでよい画像を選択）

- 流し撮りモードは、背景を流れやすくするため、シャッタースピードが遅くなります。このため、手ぶれが起こりやすくなります。
- 以下のような場合、流し撮りがうまくいきません。
  - 夏の日中など、明るいところ [NDフィルター（別売：DMW-LND55）を使うことをおすすめします（P96）]
  - シャッタースピードが1/100より速い場合
  - 被写体の動きが遅く、本機を振る速度があまりにも遅い場合（背景が流れません）
  - 本機が被写体にうまく追いつけていない場合
- 手ぶれ補正は[MODE1]に固定されます。流し撮りモードでは、縦方向のみ手ぶれが補正されます。
- ISO感度は[ISO80]に固定されます。
- AF補助光とAF連続動作の設定は無効になります。

花火モード

夜空に打ち上げられる花火をきれいに撮りたいときに合わせてください。打ち上げ花火を撮影するために、シャッタースピードや露出を自動的に調整します。

■ 撮影のテクニック

打ち上げ花火のシャッターチャンスを逃さないために、次の手順で置きピン撮影することをおすすめします。

❶ AF 駆動を [FOCUS] にする（P68）
❷ 花火が上がるのと同じくらいの距離にある、遠くの明かりなどにカメラを向ける
❸ フォーカス表示（P30）が点灯するまで、[FOCUS] ボタンを押す
❹ 花火が打ち上げられる方向に本機を向けて待機する
❺ 花火が打ち上げられたら、シャッターボタンを全押しして撮影する

- ズーム操作をした場合は、フォーカス位置がずれるので、❷ ～ ❺ の操作をやり直してください。
- 三脚を使うことをおすすめします。

- AF時のピントが合う範囲は5 m～∞です。（上記の ❶ ～ ❺ の手順で置きピン撮影することをおすすめします）
- ISO 感度は [AUTO] に固定されます。
- AF補助光とAF連続動作の設定は無効になります。
- フラッシュは発光禁止 [] に固定されます。

パーティーモード

結婚式や室内でのパーティーなどで、その場の雰囲気を生かして撮影したいときに合わせてください。フラッシュを使い、シャッタースピードを遅くすることにより、人物とともに背景も見た目に近い明るさになります。

■ 撮影のテクニック

- フラッシュを開いてください。（P37）
- シャッタースピードが遅くなるため、三脚の使用をおすすめします。
- ズームレバーを W 端(広角)にして、被写体から約 1.5 m ほど離れたところから撮影することをおすすめします。

- フラッシュ設定時は、赤目軽減強制発光 [] または赤目軽減スローシンクロ [] に設定できます。
- ISO感度は[AUTO]に固定されます。

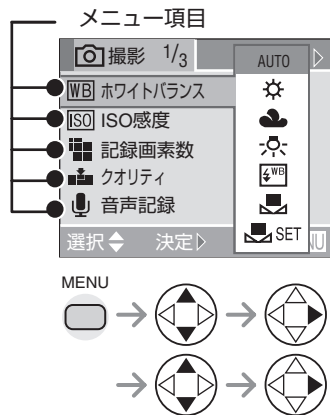
雪 モード

スキー場や雪山など、雪のある場所で撮りたいときに合わせてください。白い雪を白く出すように、露出とホワイトバランスを調整します。

- ISO感度は[AUTO]に固定されます。

撮影メニューを使う

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 🎞 SCN

色合いや画質調整などを設定すると、撮影のバリエーションが広がります。
- モードダイヤルを撮影するモードに合わせてください。

- ズームレバーを回すと、1/3、2/3、3/3 とページが切り換わります。
- 設定終了後、シャッターボタンを半押しまたは [MENU] ボタンを押して、メニューを終了してください。

WB ：ホワイトバランス（P63）
ISO ：ISO 感度（P65）
：記録画素数（P65）
：クオリティ（P66）
：音声記録（P66）
(•) ：測光モード（P66）
AF ：AF モード（P67）
C-AF ：AF 連続動作（P68）
➔AF ：AF 駆動（P68）
AF☀ ：AF 補助光（P69）
：デジタルズーム（P69）
：カラーエフェクト（P70）
：画質調整（P70）
：コマ撮りアニメ（P71）

つづく

WB ホワイトバランス

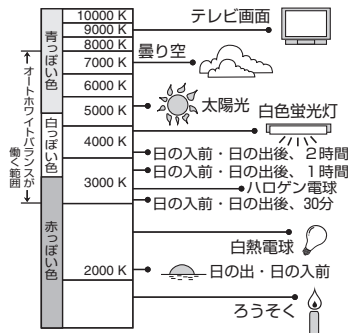
モードダイヤル設定：P A S M

太陽光や白熱灯下など、白色が赤みがかったり青みがかったりする場面で、見た目に近い白色に調整します。

項目	撮影状況
AUTO（オート）	自動で設定するとき
（晴天）	屋外晴天下で撮影するとき
（曇り）	曇天や日陰で撮影するとき
（白熱灯）	白熱灯下で撮影するとき
（フラッシュ）	フラッシュの光のみで撮影するとき
（セットモード）	あらかじめセットしている設定を使用するとき
SET（セットモード）	新しくホワイトバランスを設定するとき

- [AUTO] 以外に設定すると、ホワイトバランスを微調整することができます。

■ オートホワイトバランスについて

オートホワイトバランスが働く範囲は、図のとおりです。範囲外での撮影では、画像が赤っぽくなったり、青っぽくなったりします。また、図の範囲内にあっても、光源が複数の場合は、オートホワイトバランスが正常に働かない場合があります。この場合は、手動でホワイトバランスを [AUTO] 以外に設定して調整してください。

■ セットモードについて（SET）

手動でホワイトバランスを設定したいときに使用します。

SET（セットモード）に設定して、▶ を押してください。白い紙などに本機を向けて、画面の中央の枠内に白いものだけが写るようにし、▶ を押してください。

■ ホワイトバランス微調整(WB±)について

ホワイトバランスを設定しても、思いどおりの色合いにならないときに、微調整することができます。

- ホワイトバランスを ☼ / ☁ / ☀ / WB / ⊡ に設定してください。(P63)

▲ボタンを数回押し、[WB± WB 微調整] を表示させ、ホワイトバランスを調整する

▶：青（赤みが強い場合）
◀：赤（青みが強い場合）

ホワイトバランスについて

- かんたんモード [♥] 時は、[AUTO] に固定されます。
- フラッシュ撮影すると、フラッシュ光に適したホワイトバランスが自動的に設定されます [☼（晴天）、WB（フラッシュ）を除く] が、フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。

ホワイトバランス微調整について

- ホワイトバランスを微調整すると、液晶モニター / ファインダーに表示されるホワイトバランスアイコンが赤、または青に変わります。
- ホワイトバランスの各モードで独立して微調整することができます。
- ホワイトバランスの微調整は、フラッシュ撮影にも反映されます。
- セットモード [⊡SET] で新しくホワイトバランスを設定し直したときは、微調整レベルは “0” に戻ります。
- カラーエフェクト設定(P70)を [クール]、[ウォーム]、[白黒]、[セピア] のいずれかに設定しているときは、ホワイトバランスの微調整はできません。

つづく

ISO ISO 感度

モードダイヤル設定：P A S M

ISO 感度とは、光に対する敏感さを数値で表したもので、数値が高くなるほど、暗い場所での撮影に適しています。

- [AUTO] を選ぶと、明るさに応じて ISO 感度を [ISO80] ～ [ISO200] まで自動的に高くしていきます。（フラッシュ使用時は [ISO100] ～ [ISO400]）

ISO 感度	80	400
屋外など明るい場所での撮影	適している	適していない
暗い場所での撮影	適していない	適している
シャッタースピード	遅くなる	速くなる
ノイズ	少ない	多い

- かんたんモード [♥]、動画撮影モード [🎞]、シーンモード（P57）時は [AUTO] に固定されます。（シーンモードの夜景、流し撮りは [ISO80] に固定されます）
- 絞り優先 AE、シャッター優先 AE、マニュアル露出時は [AUTO] の選択はできません。
- ノイズが気になるときは、ISO 感度を低くするか、[画質調整] を [ナチュラル] にして撮影することをおすすめします。（P70）
- シャッタースピードについては、53 ページをお読みください。

記録画素数

モードダイヤル設定：P A S M SCN

大きい記録画素数 (2560×1920) を選ぶと、鮮明にプリントすることができます。
小さい記録画素数 (640×480) を選ぶと、多くの画像が記録できます。また、データ容量が小さいので、E メールの添付画像やホームページ用画像などに使用するときに便利です。

項目	記録画素数	画素数のめやす
2560	2560×1920 画素	約 500 万画素
2048	2048×1536 画素	約 300 万画素
1600	1600×1200 画素	約 200 万画素
1280	1280×960 画素	約 130 万画素
640	640×480 画素	約 35 万画素
HDTV	1920×1080 画素	約 200 万画素

- [HDTV] で撮影した画像をハイビジョンテレビで再生する方法については、87 ページをお読みください。
- [HDTV] で撮影した画像は、プリント時に両端が切れる場合がありますので、事前にご確認ください。（P116）

- 動画撮影モード [🎞] 時、コマ撮りアニメ作成時は、320×240 画素に固定されます。
- 被写体や撮影状況によってはモザイク状になることがあります。
- 被写体により記録枚数は変動します。
- 液晶モニター/ファインダーに表示される残り枚数は、撮影された枚数分、減少しない場合があります。
- 記録枚数については、16 ページをお読みください。

クオリティ

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 SCN

3 種類のクオリティ（圧縮率）の中から、目的に合わせて選ぶことができます。

- TIFF：TIFF（非圧縮）
  レタッチソフトなどで画像を編集・加工するときに最適です。
- ：ファイン（低圧縮）
  画質を優先し、高画質に記録します。
- ：スタンダード（高圧縮）
  撮影枚数を優先し、画質は標準で記録します。

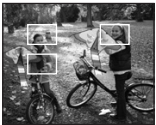
- [TIFF] に設定すると、スタンダード相当の JPEG 画像が同時に作られます。
- 被写体や撮影状況によってはモザイク状になることがあります。
- 被写体により記録枚数は変動します。
- 液晶モニター/ファインダーに表示される残り枚数は、撮影された枚数分、減少しない場合があります。
- クオリティを [TIFF] に設定しているときは、以下の機能は使えません。
  アフレコ　連写　リサイズ　トリミング
  音声記録　オートブラケット
- 記録枚数については、16 ページをお読みください。

音声記録

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 SCN

音声付きの静止画を撮影します。

- [ON] に設定すると [🎤] が画面に表示されます。
- ピントを合わせてシャッターボタンを押すと、撮影開始から約 5 秒後、録音が自動的に終了します。シャッターボタンを押したままにする必要はありません。
- 音声は本機の内蔵マイクより録音されます。
- 録音中に [MENU] ボタンを押すと解除されます。音声は記録されません。
- オートブラケット、連写、クオリティを [TIFF] に設定したときは、音声付き静止画を撮ることができません。

測光モード

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 🎞

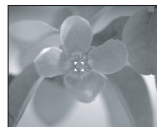
以下の測光方式に切り換えることができます。

測光方式	設定内容
[(•)] 評価測光	画面全体の明るさの配分をカメラが自動的に評価して、露出が最適になるように測光する方式です。通常はこの方式に合わせて使用することをおすすめします。
[( )] 中央重点測光	画面中央部の被写体に重点を置いて、画面全体を平均的に測光する方式です。
[•] スポット測光	スポット測光ターゲット上の被写体に対して測光する方式です。 スポット測光ターゲット

つづく

AF AFモード

モードダイヤル設定：P A S M [マクロ] [動画] SCN

項目	効果
(9 点)	9 点いずれかでピントを合わせます。被写体の位置を限定することなく、自由な構図で撮影できます。
H (3 点高速)	左、中央、右の 3 点いずれかでピントを合わせます。
H (1 点高速)	画面中央の AF エリア内にピントを合わせます。
(1 点)	画面中央の AF エリア内にピントを合わせます。
(スポット)	限られた狭い範囲内にピントを合わせることができます。

■ 高速 AF(H)モードについて

- 3点高速または1点高速を選択時は、AFが高速で駆動され、より早くピントを合わせることができます。
- シャッターを半押しすると、ピントが合う前の状態で画像が静止することがありますが、故障ではありません。AF 中に画像を静止させたくない場合は、1点高速、3点高速以外の AF モードをお使いください。

- デジタルズーム時または暗い場所での撮影時は、通常よりも大きな中央1点の AF エリアが表示されます。
- AF エリアが複数（最大 9 個）点灯した場合は、点灯したすべての AF エリアにピントが合っています。
  カメラが自動的に判断した位置にピントが合うので、ピントが合う位置は決まっていません。ピントを合わせる位置を決めて撮影したいときは、設定を1点に切り換えてください。

C-AF AF 連続動作

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 🎞 SCN

常時ピント合わせを行うので、構図が決めやすくなります。AF モードが 1 点、1 点高速、スポットのときは、シャッターボタンを半押ししたときのピントが合うまでの時間が短くなります。

- [ON] に設定すると [C-AF] が画面に表示されます。

- バッテリーの消耗は早くなります。
- ズームレバーを W 端から T 端に回したり、急に被写体を遠くから近くに変えたあとは、ピントが合うまでに時間がかかることがあります。
- 撮影中、ピントが合いにくいときは、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてください。

➔AF AF 駆動

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 🎞 SCN

置きピン撮影をするときは、[AF 駆動] で AF（オートフォーカス）動作の開始ボタンを [FOCUS] ボタンに設定します。「置きピン」は、動きの速い被写体の撮影時に、あらかじめ撮影ポイントにピントを合わせておくテクニックです。運動会でゴールしてくる子供、結婚式での新郎新婦など、被写体との距離が決まっている場合の撮影に最適です。

- ⌓：シャッターボタンを半押しすると、AF が働きます。
- FOCUS：[FOCUS] ボタンを押すと、AF が働きます。

■ [FOCUS] ボタンを使った置きピン撮影の手順

❶ピントを合わせたいポイントに AF エリアを合わせる（P30）

❷[FOCUS] ボタンを押す
ピントが合うと、AF エリアの枠が白から緑に変わり、約 1 秒間フォーカス表示が点灯します。
ピントが合わないと AF エリアの枠が白から赤に変わり、約 1 秒間フォーカス表示が点滅します。
ピントは、もう一度 [FOCUS] ボタンを押すまで変わりません。
シャッターボタンを半押しすると、[AFFOCUS] が消え、絞り値とシャッタースピードが表示されます。
[FOCUS] ボタンを押さずに、シャッターボタンを半押しすると、[AFFOCUS] が赤くなります。

フォーカス表示

❸ 被写体が、ピントを合わせたポイントに収まったら、シャッターボタンを押して撮影する

- 通常の撮影をするときは [⌓] に設定してください。置きピンなど、撮影前にあらかじめピントを合わせておく必要があるときは、[FOCUS] に設定してください。置きピン撮影が終わったら、設定を [⌓] に戻してください。

- かんたんモード [♥] のときは、[⌓] に固定されます。

つづく

AF 補助光

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 🎞 SCN ❤

撮影場所が暗くピントが合いにくいときに、光を当ててピントを合わせやすくする機能です。暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、通常よりも大きな AF エリアが表示され、AF 補助光ランプが光ります。

- [ON]： 撮影場所が暗いとき、AF 補助光ランプが光ります。このとき、画面上に AF 補助光アイコン [AF] が表示されます。補助光の有効距離は 1.5 m です。
- [OFF]： AF 補助光ランプは光りません。

- AF 補助光使用時は以下の点にお気を付けください。
  - 近くで発光部を見ないでください。
  - レンズフードは外してください。
  - AF 補助光ランプを指でふさがないでください。
  - バッテリーの消耗は早くなります。
- かんたんモード [❤] では、[ON] に固定されます。
- シーンモード（P57）の風景、夜景、流し撮り、花火では AF 補助光は使えません。
- 暗闇で動物を撮るときなど、暗い場所でAF補助光ランプを光らせたくない場合は、[OFF] に設定してください。このとき、ピントは合いにくくなります。
- AF 補助光点灯時は、AF エリアは中央 1 点のみとなります。（P67）
- レンズ部により、AF 補助光の外周の一部がケラレる場合がありますが、性能上に問題はありません。

デジタルズーム

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 🎞 SCN

光学 12 倍、デジタル 4 倍の最大 48 倍まで拡大が可能になります。

■ デジタルズーム領域に入る

- 光学ズームの最も望遠側まで拡大すると、一度ズーム表示のバーが停止します。
  その状態でズームレバーを T 側に回し続けるか、一度ズームレバーを離してもう一度 T 側にズームレバーを回すと、デジタルズーム領域に入ることができます。

- デジタルズームは拡大するほど画質が劣化します。
- デジタルズーム領域では、手ぶれ補正が効きにくくなることがあります。
- デジタルズーム使用時は三脚の使用をおすすめします。
- ズーム倍率はめやすです。
- デジタルズーム領域では、通常よりも大きなAFエリアが表示され、AF エリアは中央 1 点のみとなります。（P67）

カラーエフェクト

モードダイヤル設定：P A S M 🌷 🎞

4 種類の色彩効果が得られます。撮影イメージに合わせて使い分けてください。

項目	効果
クール	青っぽい画像になります。
ウォーム	赤っぽい画像になります。
白黒	白黒画像になります。
セピア	セピア色の画像になります。

画質調整

モードダイヤル設定：P A S M 🌷

撮影状況、撮影イメージに合わせて使い分けてください。

項目	効果
ナチュラル	より柔らかいイメージの画像になります。
ヴィヴィッド	よりくっきりとしたイメージの画像になります。

- 暗い場面で撮影するとき、ノイズが目立つことがあります。ノイズが気になるときは、[画質調整] を [ナチュラル] にすることをおすすめします。

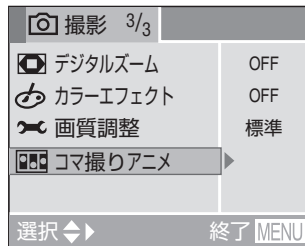
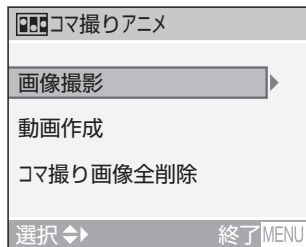
つづく

コマ撮りアニメ

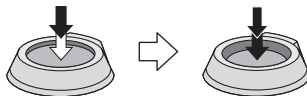
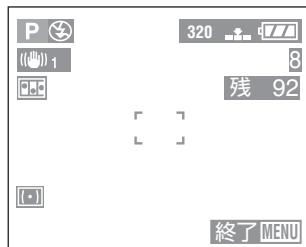
モードダイヤル設定：P A S M 🌷 SCN

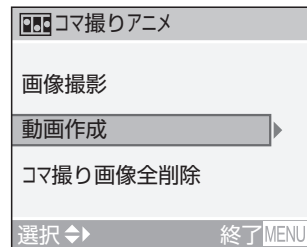
本機では、コマ撮りした画像をつなぎ合わせて、最長約 20 秒の動画ファイルを作成することができます。
たとえば…
人形などを少しずつ動かすごとに撮影して

つなぎ合わせると動いているように見えます。

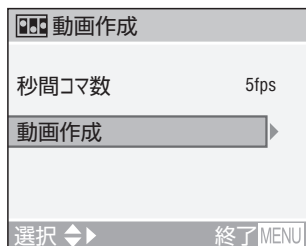
- 作成したコマ撮りアニメを再生する方法は、動画を再生するときと同じです。(P74)

[コマ撮りアニメ] を選ぶ

[画像撮影] を選ぶ

- 記録画素数は320×240画素になります。

ひとコマずつ撮影する

- ▼ を押すと、撮影した画像を確認できます。◀/▶ を押すと、前後の画像を確認することができます。
- 不要な画像は[🗑]ボタンで削除してください。
- 最大100枚まで撮影できます。表示される残量枚数はめやすです。

[動画作成] を選ぶ

[秒間コマ数]を選び、設定する

- 5 fps　：5 コマ / 秒
- 10 fps：10 コマ / 秒
  (よりなめらかな動画になります)

[動画作成] を選び、コマ撮りアニメを作成する

- 動画作成をすると、ファイル番号が表示されます。
- 作成終了後、[MENU] ボタンを３回押してメニューを終了します。

■ コマ撮りアニメ用静止画像をすべて削除する

[コマ撮りアニメ]のメニューから[コマ撮り画像全削除]を選択すると、確認画面が表示されます。▼ ボタンで[はい]を選び、▶ ボタンを押してください。

- 縦位置検出機能、音声付き静止画、連写、オートブラケットは使えません。
- 各コマの画像は通常のレビュー(P35)では表示されません。
- [動画作成] を実行すると、コマ撮りアニメ用に撮影されたすべての画像が 1 つのアニメになります。不要な画像は、削除しておいてください。
- 音声は記録されません。
- アフレコ機能 (P83) で音声を記録することはできません。
- 他機では再生できない場合があります。また、他機で再生したとき、ミュート機能のない機種ではノイズが出る場合があります。

音声付き静止画 / 動画を再生する

モードダイヤル設定：[▶]

■ 音声付き静止画

音声アイコン [♪] が付いた画像を選び、音声を再生する

■ 動画

動画アイコン [▤] が付いた画像を選び、動画を再生する

- 再生中に表示されるカーソルは、▲/▼/◀/▶ に対応しています。
- もう一度 ▼ を押すと停止し、通常の再生画面に戻ります。

■ 早送り / 早戻しする

動画再生中に ◀/▶ を押したままにする
▶：早送り　◀：早戻し

- ボタンを離すと、通常の動画再生に戻ります。

■ 一時停止する

動画再生中に ▲ を押す

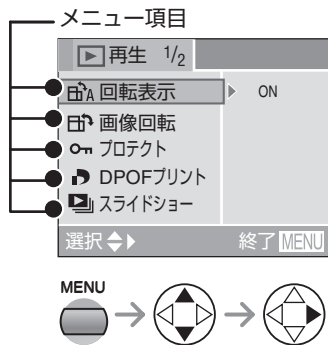
- もう一度 ▲ を押すと一時停止が解除されます。

- スピーカーから音声が聞こえます。音量調整については、22 ページをお読みください。
- 音声付き静止画はリサイズ（P84）、トリミング（P85）できません。
- 動画再生中や一時停止中、ズームはできません。
- 本機で再生できるファイル形式は QuickTime Motion JPEG です。
- パソコンや他機で記録された QuickTime Motion JPEGファイルは本機で再生できない場合があります。
- 他機で撮影された動画を再生すると、画質が劣化したり、再生できない場合があります。
- 大容量のカードを使用したとき、早戻しが遅くなる場合があります。

再生メニューを使う

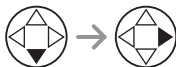
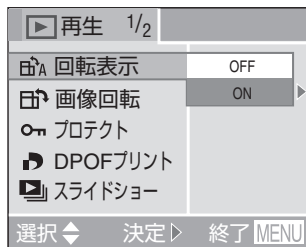
つづく

モードダイヤル設定：

撮影した画像の回転表示やプロテクト設定など、いろいろな再生機能を使うことができます。

- ズームレバーを回すと、1/2、2/2 とページが切り換わります。
- 上図の操作でメニューを選んだあと、各メニューの設定を行ってください。

：回転表示（P76）
：画像回転（P77）
：プロテクト（P78）
：DPOF プリント（P80）
：スライドショー（P82）
：アフレコ（P83）
：リサイズ（P84）
：トリミング（P85）
：フォーマット（P86）

回転表示

本機を縦に構えて撮影した画像や、画像回転で回転させた画像を回転して表示させることができます。

[ON] に設定する

- [OFF]に設定すると画像は回転されずに表示されます。
- 画像を再生する方法については45 ページをお読みください。

- 本機を縦に構えて撮影する場合は、「上手に撮影するには」をよくお読みください。（P29）
- 本機を上に向けたり、下に向けたりして撮影した画像では、縦位置検出機能（P32）が正しく機能しない場合があります。
- 通常再生での静止画のみ回転できます。回転された画像をズーム再生やマルチ再生で再生した場合は、撮影時の角度の画像で表示されます。
- 縦に構えて撮影しない場合でも、[画像回転]（P77）をすることで回転して表示できます。

つづく

画像回転

撮影した画像を 90° ごとに回転して表示させることができます。

画像を選び決定する

- 動画撮影モード [ ] で撮影された画像、プロテクトされた画像は回転できません。

回転方向を設定する

↷ :時計回りに 90° ごとに回転します。

↶ :反時計回りに 90° ごとに回転します。

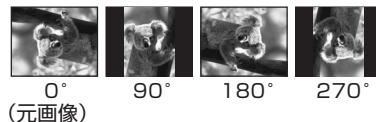
- 設定終了後、[MENU] ボタンを2回押してメニューを終了します。

■画像回転の例 [時計回り(↷)の場合]

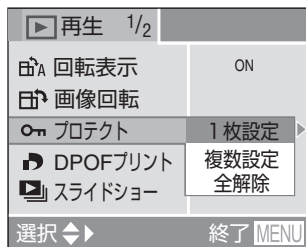
0°
(元画像)

90°

180°

270°

- パソコンで再生するとき、Exif に対応した OS またはソフトウェアでないと、回転して表示されないことがあります。[Exif とは、(社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画像用のファイルフォーマットです]
- [回転表示] が [OFF] になっていると、画像回転できません。
- 本機を縦に構えて撮影したときは、縦 (回転されて) で表示されます。

プロテクト

画像を誤って削除することがないように、削除したくない画像にプロテクトを設定することができます。

[1 枚設定]、[複数設定]、または [全解除] を選ぶ

■ 1 枚設定

画像を選び、設定 / 解除する

設定 :プロテクト表示が出ます。
解除 :プロテクト表示が消えます。

- 設定 / 解除終了後、[MENU] ボタンを2回押してメニューを終了します。

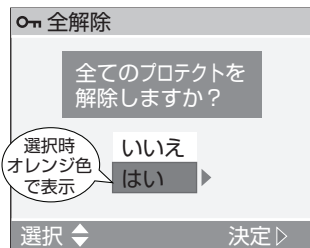
■ 複数設定

画像を選び、設定 / 解除する

設定 :プロテクト表示が出ます。
解除 :プロテクト表示が消えます。

- この手順を繰り返します。
- 設定 / 解除終了後、[MENU] ボタンを2回押してメニューを終了します。

つづく

■ 全解除

[はい] を選び、すべてのプロテクト設定を解除する

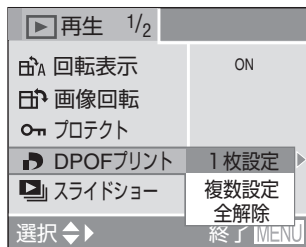
- 設定終了後、[MENU] ボタンを押してメニューを終了します。

- プロテクト設定は本機以外では無効になる場合がありますので、お気を付けください。
- プロテクトされた画像は削除できません。ファイルを削除したいときは、プロテクト設定を解除してください。
- 画像をプロテクトしても、フォーマットした場合は削除されます。(P86)
- プロテクト設定をしていなくても、SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしておくと、画像の削除はできません。

- 画像をプロテクトすると以下の機能が使えません。
  - 画像回転（P77）
  - アフレコ（P83）

DPOF（ディーポフ）プリント

DPOF（ディーポフ）プリントに対応したお店やプリンターでプリントするときに、画像、枚数や日付プリントを指定することができます。詳しくは、お店にお尋ねください。

①

[1 枚設定]、[複数設定]、[全解除] から選ぶ

■ 1 枚設定

画像を選び、プリント枚数を設定する

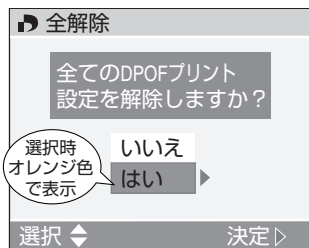
- プリント枚数は 0 ～ 999 枚まで設定できます。
  このとき、プリント枚数を 0 にすると、DPOF プリント設定が解除されます。
- 設定終了後、[MENU] ボタンを２回押してメニューを終了します。

■ 複数設定

画像を選び、プリント枚数を設定する

- この手順を繰り返します。
- プリント枚数は 0 ～ 999 枚まで設定できます。
  このとき、プリント枚数を 0 にすると、DPOF プリント設定が解除されます。
- 設定終了後、[MENU] ボタンを２回押してメニューを終了します。

つづく

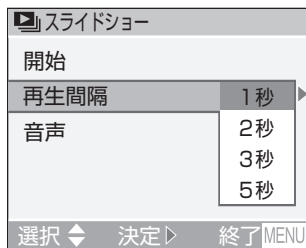
■ 全解除

[はい]を選び、すべてのDPOF プリント設定を解除する

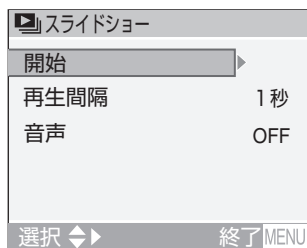
- 解除終了後、[MENU] ボタンを押して、メニューを終了します。

■ 日付をプリントする

プリント枚数設定時、[DISPLAY] ボタンを押すごとに日付プリントを設定 / 解除できます。

- お店にデジタルプリントを依頼するときは、日付印刷することを別途指定してください。
- 日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付をプリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。

- プリント設定すると、PictBridge 対応のプリンターで出力するときにも便利です。（P91）
- DPOF とは Digital Print Order Format の略です。DPOF 対応のシステムで活用できるようにプリント情報を書き込むことができるようにしたものです。
- DCF 規格に準拠してないファイルは DPOF プリント設定できません。[DCFとはDesign rule for Camera File system の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）のファイルシステム規格に準拠した記録方式です]
- 本機でDPOFプリント設定するときは、他機種で設定された DPOF 情報をすべて解除する必要があります。

スライドショーの設定をする

再生間隔	1、2、3、5 秒の中から設定できます。
音声	[ON] に設定すると、音声付き静止画の音声が再生されます。

[開始] を選び、決定する

- [MENU] ボタンを押すと終了します。

■ SD スライドショーについて

CD-ROM（付属）のソフトウェア [SD Viewer for DSC] で編集されたSDスライドショーのデータが記録されているカードを本機に入れ、再生モードで電源を入れると確認画面が表示されます。[はい] を選んで ▶ ボタンを押すと、SD スライドショーが始まります。通常再生にするときは[いいえ]を選んで ▶ ボタンを押してください。

- [SD Viewer for DSC]でDPOFスライドショー設定された画像は、本機ではスライドショー表示ができません。

- スライドショーで動画再生はできません。
- [音声] を [ON] にして音声付き静止画を再生するとき、音声記録で5秒、アフレコで最大 10 秒間音声が再生されます。

つづく

アフレコ

撮影した画像に、あとから音声を入れることができます。

画像を選び、録音を開始する

● すでに音声が入っている場合、確認画面が表示されます。
▼で[はい]を選び、▶ボタンを押して録音を開始してください。
(元の音声はなくなります)

● 動画、プロテクトされた画像、クオリティが [TIFF] で撮影された画像にはアフレコはできません。

録音を終了する

● ▼ ボタンを押すと、録音が終了します。

● ▼ ボタンを押さなくても、約 10 秒間録音すると、自動的に終了します。

● 終了後、[MENU] ボタンを 2 回押してメニューを終了します。

リサイズ

Eメール添付やホームページ用に撮影した画像の容量を小さくしたいときなどに使います。

画像を選び、決定する

- 以下の画像はリサイズできません。
  - サイズが640×480画素以下の画像
  - 記録画素数が[HDTV]で撮影された画像
  - クオリティが[TIFF]で撮影された画像
  - 動画
  - コマ撮りアニメ
  - 音声付き静止画

サイズを選び、設定する

- 撮影した画像のサイズよりも、小さなサイズが表示されます。
- [2048]：2048×1536画素
- [1600]：1600×1200画素
- [1280]：1280×960画素
- [640]　：　640×480画素

[はい]または[いいえ]を選び、決定する

- [はい]を選ぶと画像が上書きされます。
- 元の画像がプロテクトされている場合は上書きできません。
- リサイズ終了後、[MENU]ボタンを2回押してメニューを終了します。

- リサイズされた画像が上書きされると、元に戻すことができません。
- 他機で撮影された画像はリサイズできない場合があります。

つづく

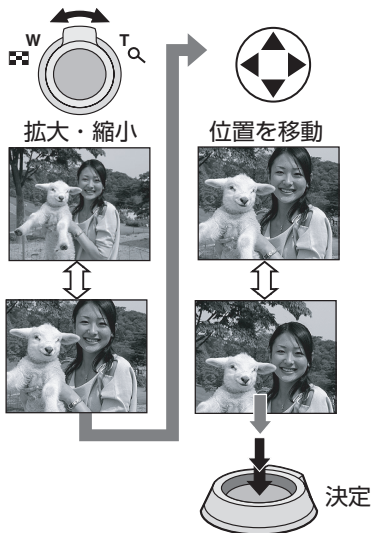
トリミング

撮影した画像の必要な部分を切り抜きたいときに使います。

①

画像を選び、決定する

- 以下の画像はトリミングできません。
  - サイズが 640×480 画素未満の画像
  - 記録画素数が[HDTV]で撮影された画像
  - クオリティが [TIFF] で撮影された画像
  - 動画
  - コマ撮りアニメ
  - 音声付き静止画

②

切り抜く部分を選び、決定する

- 「元の画像を削除しますか？」とメッセージが表示されます。

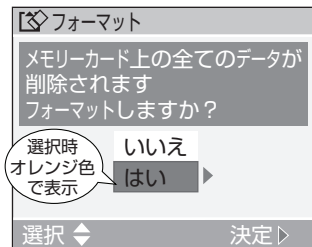
③

[はい] または [いいえ] を選び、決定する

- [はい]を選ぶと画像が上書きされます。トリミングされた画像が上書きされると、元に戻すことができません。
- 元の画像がプロテクトされている場合は上書きできません。
  [いいえ] を選ぶとトリミングされた画像が新しく作成されます。
- トリミング終了後、[MENU] ボタンを2回押してメニューを終了します。

- [回転表示]を[ON]にしていても回転表示されません。(P76)
- 他機で撮影された画像はトリミングできない場合があります。
- トリミングを行うと、切り取るサイズによっては元の画像より記録画素数が小さくなる場合があります。
- トリミングを行うと画質が劣化します。

フォーマット

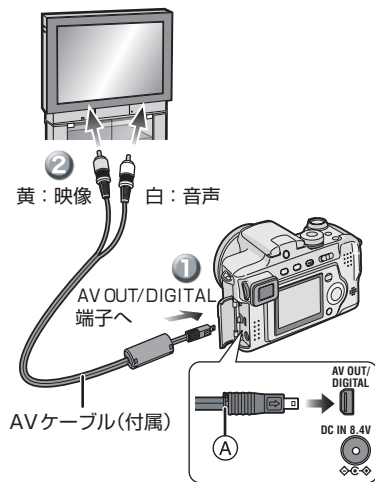
カードを初期化します。

[はい] を選び、フォーマットする

- 通常、カードはフォーマットする必要はありません。「メモリーカードエラー」とメッセージが表示された場合などにフォーマットしてください。
- パソコンやその他の機器でフォーマットされたカードを使用する場合、もう一度本機でフォーマットしてください。
- プロテクトされた画像も含めてすべてのデータは一度フォーマットすると元に戻すことができません。よく確認してからフォーマットしてください。
- フォーマット中は電源を [OFF] にしないでください。
- フォーマットするときは、十分に充電されたバッテリー（P12）または AC アダプター（別売：DMW-CAC1）を使用してください。
- SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしているときは、フォーマットできません。
- カードがフォーマットできないときは、お買い上げの販売店へご連絡ください。

テレビで画像を再生する

モードダイヤル設定：[▶]

■ AV ケーブル(付属)を使って見る

● 電源を [OFF] にし、テレビの電源も切っておく。

本機の [AV OUT] 端子に AV ケーブルを確実に接続する

● AVケーブルの [➡] マークが手前に向くように接続してください。
● AV ケーブルは、Ⓐ 部を持ってまっすぐ抜き差ししてください。

テレビの映像入力端子と音声入力端子にAVケーブルを接続する

テレビの電源を入れ、外部入力にする

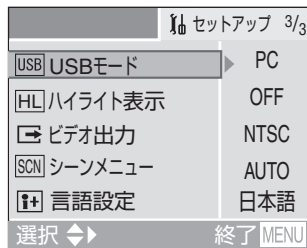
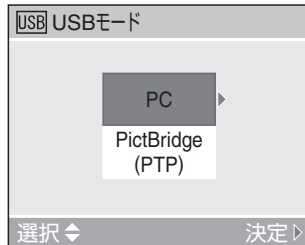
本機の電源を [ON] にし、モードダイヤルを再生 [▶] にする

■ SD メモリーカードスロット付テレビで見る

SD メモリーカードスロット付テレビに撮影したSDメモリーカードを入れて再生することができます。このとき、記録画素数（P65）を [HDTV] に設定して撮影した画像をハイビジョンテレビで再生すると、より高画質な画像で見ることができます。
（マルチメディアカードは、SD メモリーカードスロット付テレビで再生できないことがあります）

● 付属の AV ケーブル以外は使わないでください。
● 画面が流れたり色が付かない場合は、[ビデオ出力] が [NTSC] に設定されているか確認してください。（P22）
● テレビの説明書もお読みください。
● モードダイヤルを再生 [▶] にしているときのみ、テレビに画像を表示させることができます。
● 海外で見るときは 109 ページをお読みください。

パソコンやプリンターと接続する前に（USB）

USB 接続ケーブル（付属）を使って本機をパソコンやプリンターに接続する前に、USB 通信方式を選択します。
セットアップメニューの [USB モード] で設定してください。（P22）

[USB モード] を選ぶ

[PC] または [PictBridge（PTP）] を選び、決定する

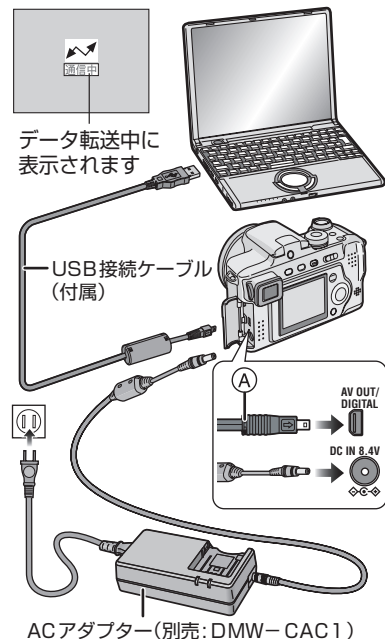
- パソコンに接続する場合は [PC] に設定してください。
- PictBridge 対応プリンターに接続する場合は [PictBridge] に設定してください。（P91）
- [MENU] ボタンを押して終了してください。

- [PC] を選択すると、USB の Mass（マス） Storage（ストレージ） 通信方式で接続されます。
- [PictBridge（PTP）] を選択すると、USB の PTP（Picture（ピクチャー） Transfer（トランスファー） Protocol（プロトコル））通信方式で接続されます。

パソコンと接続する

つづく

Windows® 98/98SE をご使用の方のみ、USB ドライバーのインストールを行ってから接続してください。

（Windows Me/2000/XP、Mac OS 9.x、Mac OS X をご使用の方は、USB ドライバーのインストールの必要はありません。インストールについては別冊の「パソコン接続編取扱説明書」を参照してください）

電源を［ON］にして、セットアップメニューの［USB モード］を［PC］に設定する（P88）

- ［USB モード］を［PictBridge（PTP）］にして接続した場合、パソコンの画面にメッセージが表示される場合があります。「キャンセル（中止）」を選んで画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。設定し直してから再度接続してください。

USB 接続ケーブル（付属）で、本機とパソコンを接続する

- USB 接続ケーブルの［➡］マークが、手前に向くように接続してください。
- USB 接続ケーブルは、Ⓐ 部を持ってまっすぐ抜き差ししてください。

Windows の場合

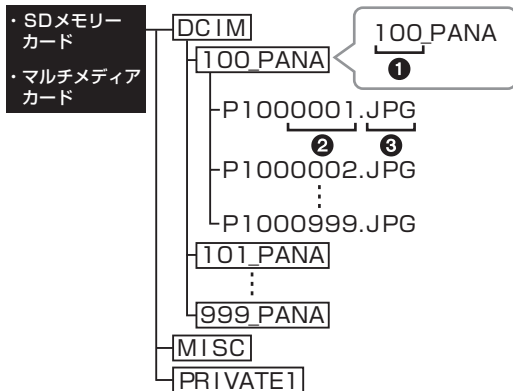
［マイ コンピュータ］フォルダーにドライブが表示されます。

- はじめて接続したときは、Windows のプラグアンドプレイにより、本機を認識するために必要なドライバーが自動的にインストールされ、そのあと［マイ コンピュータ］フォルダーにドライブが表示されます。

Macintosh の場合

画面上にドライブが表示されます。

■ フォルダー構造について

フォルダーが下図のように参照されます。

❶ フォルダー番号
❷ ファイル番号
❸ JPG ：画像
MOV ：動画

各フォルダーの内容は以下のとおりです。

DCIM	100_PANA ～ 999_PANA
100_PANA	画像 / 動画
MISC	DPOF 設定が記録されたファイル
PRIVATE1	コマ撮りアニメの画像

- 本機で記録した場合は、1 つのフォルダーにつき最大 999 枚の画像データが入ります。それを超えると次のフォルダーが作成されます。

- ファイル番号やフォルダー番号をリセットする場合は、セットアップメニューの [番号リセット] を行ってください。（P22）

- 通信中にバッテリー残量がなくなると、データが破壊される恐れがあります。接続するときは十分に残量のあるバッテリー（P12）または AC アダプター（別売：DMW-CAC1）を使用してください。
- 通信中にバッテリー残量が少なくなった場合は、電源表示ランプが点滅し警告音が鳴りますので、すぐに通信を中止してください。
- 「通信中」と表示されている間は、USB 接続ケーブルを抜かないでください。
- **Windows 2000を使用してUSB接続した場合には、接続したままでカードの交換を行わないでください。カード内の情報を破壊する恐れがあります。**
- 付属の USB 接続ケーブル以外は使わないでください。
- 詳しくは、別冊の「パソコン接続編取扱説明書」をお読みください。
- パソコンの説明書もお読みください。

■ PictBridge(PTP)設定について

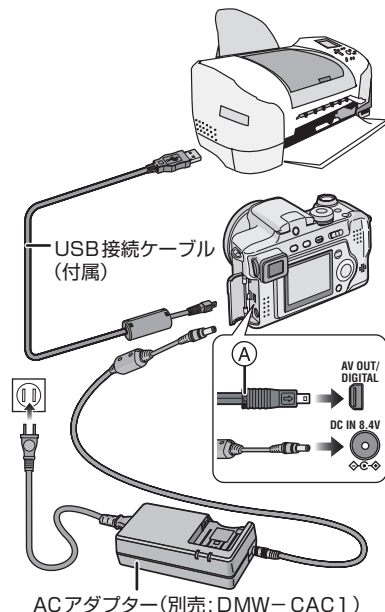
Windows XP Home Edition/Professional、Mac OS X のみ [USB モード] を [PictBridge（PTP）] にしても接続できます。

- 本機からは、画像の読み出しのみ行うことができます。カードへの書き込みや、削除はできません。
- カードの中に 1000 枚以上画像があると、取り込めない場合があります。

PictBridge対応プリンターに接続してプリントする

つづく

USB接続ケーブル（付属）を使って本機をPictBridgeに対応したプリンターに直接接続し、本機の液晶モニター上でプリントする画像を選択したり、プリント開始を指示することができます。
あらかじめプリンター側で印字品質などのプリントの設定をしてください。（プリンターの説明書をお読みください）

■ 接続する

電源を［ON］にして、セットアップメニューの［USBモード］を［PictBridge(PTP)］に設定する（P88）

プリンターの電源を入れる

USB接続ケーブル（付属）で、本機とプリンターを接続する

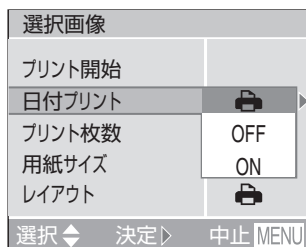
- USB接続ケーブルの［➡］マークが、手前に向くように接続してください。
- USB接続ケーブルは、Ⓐ部を持ってまっすぐ抜き差ししてください。

DPOFプリントを設定していない	「選択画像」（P92）へ
DPOFプリントを設定している（P80）	「DPOF」（P93）へ

- プリントに時間がかかる場合がありますので、接続するときは十分に残量のあるバッテリー（P12）またはACアダプター（別売：DMW-CAC1）を使用してください。
- 通信中にバッテリー残量が少なくなった場合は、電源表示ランプが点滅し警告音が鳴りますので、すぐに通信を中止してください。
- プリント終了後、USB接続ケーブルを抜いてください。
- 付属のUSB接続ケーブル以外は使わないでください。

選択画像

画像を選ぶ

- メッセージは約 2 秒後に消えます。

プリントの設定をする

- プリンターが対応していない項目はグレーで表示され、選択することができません。
- 本機が対応していない用紙サイズやレイアウト設定で印刷したい場合は、本機の用紙サイズ、レイアウト設定を [ ] にして、プリンター側で設定してください。(詳しくはプリンターの説明書をお読みください)

■ 日付プリント

	プリンターの設定が優先されます。
OFF	日付プリントされません。
ON	日付プリントされます。

- プリンターが日付プリントに対応していない場合は、日付をプリントすることができません。

■ プリント枚数

- プリントする枚数を設定してください。

■ 用紙サイズ

(本機で設定可能な用紙サイズ)

1/2と2/2に分かれて表示されます。

▼ を押して選択してください。

1/2	
	プリンターの設定が優先されます。
L/3.5″×5″	89 mm×127 mm
2L/5″×7″	127 mm×178 mm
はがき	100 mm×148 mm
A4	210 mm×297 mm

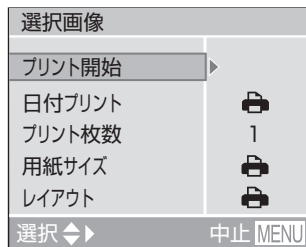
つづく

2/2 ※	
カード	54 mm×85.6 mm
10×15cm	100 mm×150 mm
4″×6″	101.6 mm×152.4 mm
8″×10″	203.2 mm×254 mm
レター	216 mm×279.4 mm

※プリンターが対応していない場合は、これらの項目は表示されません。

■ レイアウト

（本機で設定可能なレイアウト）

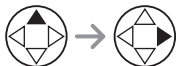
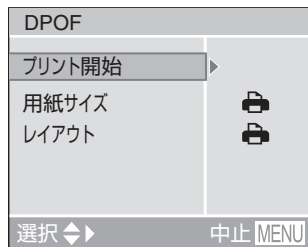
	プリンターの設定が優先されます。
	1 面ふちなし印刷
	1 面ふちあり印刷
	2 面印刷
	4 面印刷

[プリント開始] を選び、プリントする

- 途中でプリントを中止したい場合は [MENU] ボタンを押してください。

DPOF

- あらかじめ本機で DPOF プリントの設定をしておく。（P80）

[DPOF] を選ぶ

- 新たに設定した内容でDPOFプリントする場合は、一度 USB 接続ケーブルを抜いてから、もう一度プリンターに接続してください。
- [MENU] ボタンを押すと DPOF プリントの設定が変更できます。（P80）

[プリント開始] を選び、プリントする

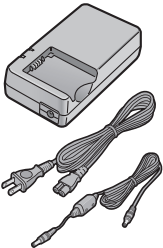
- プリントの設定をしたい場合は92､93ページをお読みください。
- 途中でプリントを中止したい場合は [MENU] ボタンを押してください。

■ DPOF プリント設定で日付プリントを指定しておく

お使いのプリンターが DPOF の日付プリント設定に対応しているときは、DPOF プリント設定であらかじめ日付プリントを設定しておくことをおすすめします。(P80) [DPOF] を選んでプリントを開始すると、撮影日時がプリントされます。

- ケーブル切断禁止アイコン [ ] が表示されているときは、USB 接続ケーブルを抜かないでください。
- プリント中にオレンジ色の[●]のアイコンが表示されているときは、プリンターからエラーメッセージを受けとっています。プリント終了後にプリンターに異常がないか確認してください。
- プリンターが TIFF プリントに対応していない場合は、TIFF をプリントすることができません。
- DPOF 印刷の場合、プリント枚数の合計が多い場合や、たくさんの画像を設定している場合、複数回に分けて印刷される場合があります。
(残り枚数の表示が設定枚数と異なりますが、故障ではありません)
- 日付プリントの設定は、プリンター側の設定が優先される場合がありますので、プリンター側の日付プリント設定も確認してください。
- プリンターが、日付プリントに対応していない場合は、日付をプリントすることができません。

■ レイアウト印刷について

- **1枚の用紙に同じ画像を印刷する場合**
例えば、1枚の用紙に同じ画像を4枚印刷する場合、[レイアウト] を4 面印刷に設定し、印刷したい画像の [プリント枚数] を4枚に設定してください。
- **1枚の用紙に異なる画像を印刷する場合 (DPOF プリントのみ)**
例えば、1枚の用紙に異なる画像を4枚印刷する場合、[レイアウト] を 4 面印刷に設定し、DPOF プリント設定 (P80) で4つの画像を [プリント枚数] 1枚でそれぞれ選択してください。

別売アクセサリーを使う

品番		品名
DMW-BM7		バッテリーパック 付属のバッテリーと同等品です。
DMW-LMC55		MCプロテクター 本機のレンズを保護します。
DMW-LND55		NDフィルター 色調に変化を与えずに光量だけを−3 EV分減少させることができます。

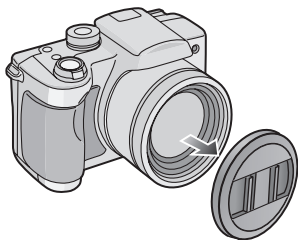
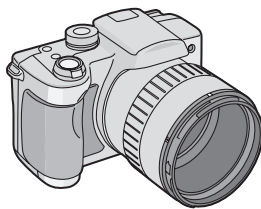
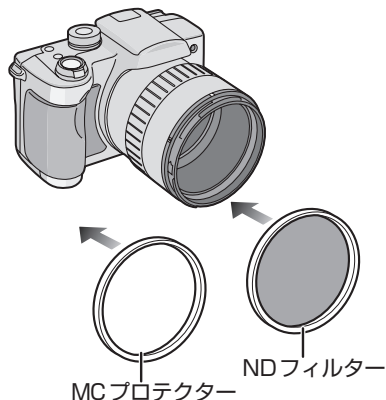
品番		品名
DMW-CAC1		バッテリーチャージャー/ACアダプター
DMW-CZS5		ソフトケース 本機を傷やほこりから守ります。

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
松下グループのショッピングサイト「パナセンス」でもお買い求めいただけます。

Pana Sense

パナセンスカスタマーセンター
TEL　06-6907-9144
http://www.sense.panasonic.co.jp/

MC プロテクター /ND フィルターを付ける

MC プロテクター（別売：DMW-LMC55) は、色調や光量にほとんど変化を与えない透明なフィルターで、レンズ保護用として使うことができます。また、ND フィルター（別売：DMW-LND55) は、色調に変化を与えずに、光量だけを1/8（3 絞り分）に減少させることができます。

1 レンズキャップを外す

2 レンズフードアダプターを取り付ける（P18）

MCプロテクター

NDフィルター

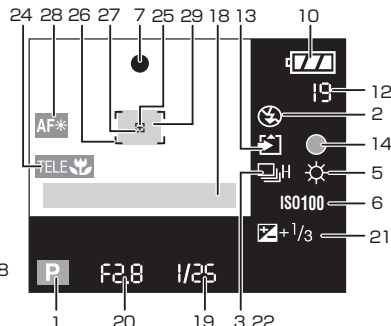
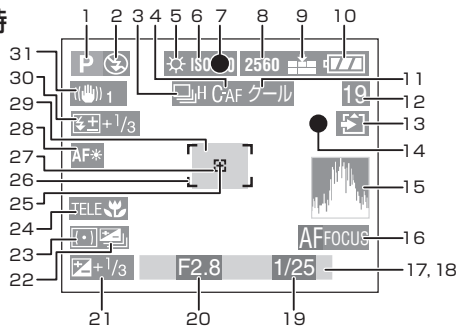
3 MC プロテクターまたは ND フィルターを取り付ける

- 本機に付属しているレンズキャップは、MC プロテクターまたは ND フィルターには使用できません。
- MC プロテクターと ND フィルターを同時に取り付けることはできません。
- MC プロテクターや ND フィルターを付けたままでフラッシュを使用した場合は、画面の下が暗く（ケラレ）なる場合があります。
- MC プロテクターや ND フィルターが落下すると、壊れる恐れがあります。装着するときなどは、落とさないようお気を付けください。

液晶モニター / ファインダーの表示

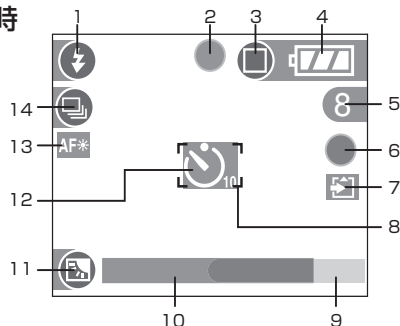
つづく

液晶モニター / ファインダーの画面表示は、本機の操作状態を示しています。

撮影時

1 撮影モード(P29)
2 フラッシュモード(P37)
3 連写(P44)
  :音声記録(P55、66)
4 AF 連続動作(P68)
5 ホワイトバランス(P63)
6 ISO 感度(P65)
7 フォーカス(P30)
8 記録画素数(P65)
9 クオリティ(P66)
  :手ぶれ警告(P32)
10 バッテリー残量(P12)
11 カラーエフェクトモード(P70)
12 残り枚数 / 時間
  動画時:×××秒
13 カードアクセス(P15)
14 記録動作
15 ヒストグラム(P28)
16 AF 駆動(P68)
17 現在日時
  起動時 / 時計設定 / 再生モードから撮影モードへ切り換え後、約 5 秒間表示されます。
18 ズーム / デジタルズーム
  (P36、69)

19 シャッタースピード(P30)
20 絞り値(P30)
21 露出補正(P41)
22 オートブラケット(P42)
23 測光モード(P66)
24 テレマクロ(P54)
25 スポット測光ターゲット(P66)
26 AF エリア(P30)
27 スポット AF エリア(P67)
28 AF 補助光(P69)
29 セルフタイマーモード(P40)
30 フラッシュ発光量調整(P39)
31 手ぶれ補正(P43)

かんたんモード時

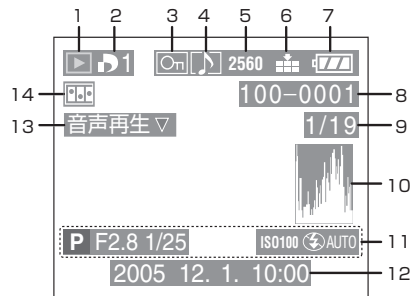
再生時

かんたんモード時

1 フラッシュモード(P37)
2 フォーカス(P30)
3 画質設定(P33)
  :手ぶれ警告(P32)
4 バッテリー残量(P12)
5 残り枚数
6 記録動作
7 カードアクセス(P15)
8 AF エリア(P30)
9 逆光補正操作(P34)
10 現在日時
  起動時 / 時計設定 / 再生モードからかんたんモードへ切り換え後、約 5 秒間表示されます。

W T 1X : ズーム (P36)

11 逆光補正(P34)
12 セルフタイマーモード(P40)
13 AF 補助光(P69)
14 連写(P44)

再生時

1 再生モード
2 DPOF[ ] プリント枚数(P80)
3 :プロテクト(P78)
4 : 音声付き静止画(P74)
5 記録画素数(P65)
  :動画時
6 クオリティ(P66)
  10fps / 30fps :動画時(P55)
  ●かんたんモード時
  : 引き伸ばし
  : サービス版
  : E メール
7 バッテリー残量(P12)
8 フォルダー·ファイル番号(P90)
9 ページ番号 / トータル枚数
10 ヒストグラム(P28)
11 撮影情報
12 撮影日時
13 音声再生(P74)
  動画再生▼ :動画時
14 コマ撮りアニメ(P71)

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
	警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠危険

指定以外のバッテリーパックを使わない
バッテリーパックの端子部（⊕・⊖）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない
バッテリーパックを分解、加工（はんだ付けなど）、加圧、加熱、火中投入などをしない
バッテリーパックを炎天下（特に真夏の車内）など、高温になるところに放置しない

液もれ・発熱・発火・破裂の原因になります。

- ビニール袋などに入れ、金属物と接触させないようにしてください。
- 不要（寿命）になったバッテリーについては、１０８ページをご参照ください。
- 万一、液もれが起こったら、販売店にご相談ください。
  液が身体や衣服に付いたときは、水でよく洗い流してください。液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

⚠危険

バッテリーチャージャーは、本機専用のバッテリーパック以外の充電には使わない

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをする原因になります。

バッテリーパックは、本機専用のバッテリーチャージャーで充電する

指定以外の充電器で充電すると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをする原因になります。

⚠警告

電源プラグを破損するようなことはしない
(加工したり、熱器具に近づけたりしない)

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

- プラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V～240 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。

- 機器の近くに水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

メモリーカードやレンズキャップは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

⚠警告

乗り物を運転しながら使わない

事故の誘発につながります。

- 歩行中でも周囲の状況、路面の状態などに十分ご注意ください。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

- 内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

ぬれた手で、バッテリーチャージャーの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

雷が鳴り出したら、本機の金属部やバッテリーチャージャーの電源プラグに触れない

接触禁止

落雷すると、感電の原因になります。

⚠警告

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

異常があったときは、バッテリーパックを外す

・内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
・落下などで外装ケースが破損したとき
・煙や異臭、異音が出たとき

そのまま使うと、火災・感電の原因になります。

- 販売店にご相談ください。

⚠注意

本機の上に重い物を載せたり、乗ったりしない

倒れたり落下すると、けがや製品の故障の原因になることがあります。
また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない

特に真夏の車内、車のトランクの中は、想像以上に高温（約60℃以上）になります。本機やカード、バッテリー、バッテリーチャージャーなどを絶対に放置しないでください。外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。

レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光により、内部部品が破損し、火災の原因になることがあります。

フラッシュやAF補助光の発光中に、近くで発光部を直接見ない

強い光により、目を痛める原因になることがあります。

⚠注意

フラッシュの発光部分を直接手で触らない

やけどの原因になることがあります。

- 発光直後は、しばらく触らないでください。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。
たばこの煙なども製品の故障の原因になることがあります。

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を及ぼす原因になることがあります。

- 病院などで使うときも、病院の指示に従ってください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、バッテリーパックを外す

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

- カードは、保護のため取り出しておいてください。

使用上のお願い

つづく

■ 本機について

本機を持ち運びするときは、落としたり、ぶつけたりしない

- 強い衝撃が加わるとレンズや外装ケースが壊れ、故障します。

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ(電子レンジ、テレビやゲーム機など)からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像や音声が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響を及ぼし、画像や音声が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーや AC アダプター(別売：DMW-CAC1)を一度外してから、あらためて接続し電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影画像や音声が悪くなることがあります。

付属のコード、ケーブルを必ず使用してください。別売品をお使いの場合は、別売品に付属のコード、ケーブルを使用してください。
また、コード、ケーブルは延長しないでください。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤を使わない

- お手入れの際は、バッテリーを外す、または電源プラグをコンセントから抜いておいてください。
- 溶剤を使うと外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがあります。
- 本機は、柔らかい乾いた布でほこりをふいてください。汚れがひどいときは、台所用中性洗剤を水でうすめ、布をひたし、よく絞って汚れをふき、乾いた布で仕上げてください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- 万一雨水や水滴がかかったときは、よく絞った布でふき、そのあと乾いた布でふいてください。

■ バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。
このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。

使用後は、必ずバッテリーを取り出す

出かけるときは予備のバッテリーを準備する

- スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなりますので、お気を付けください。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるようにチャージャー(付属)も忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグが必要な場合があります。(P109)

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する

- 端子部が変形したまま本機に付けると、本機をいためます。

不要になった電池(バッテリー)は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

使用済み充電式電池の届け先

最寄りのリサイクル協力店へ

詳細は、有限責任中間法人 JBRC のホームページをご参照ください。

- ホームページ
  http://www.jbrc.net/hp

使用済み充電式電池の取り扱いについて

- 端子部をセロハンテープなどで絶縁してください。
- 分解しないでください。

充電式
リチウムイオン
電池使用

Li-ion

■ チャージャーについて

- ラジオ(特に AM 受信中)の近くで使うと、ラジオに雑音が入る場合があります。使用時は 1 m 以上離してください。
- 使用中、チャージャーの内部で発振音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 使用後は、必ず電源コンセントから抜いてください。(接続したままにしておくと、最大約 0.1 W の電力を消費しています)
- チャージャーの端子部を汚さないでください。

■ カードについて

カードを高温になるところや直射日光のあたるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない

また、折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない

- カードが破壊される恐れがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失する恐れがあります。
- 使用後や保管、持ち運び時はケースや収納袋に入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また手などで触れないでください。

■ 画像データについて

- 不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ 三脚について

市販のカメラ用三脚を使うと、シャッタースピードが遅いときや、望遠で撮影するときでも手ぶれのない安定した撮影ができます。

- 三脚使用時は、カードやバッテリーは取り出せません。
- 三脚の説明書もよくお読みください。

海外で使う

つづく

撮ったものを海外で見るには

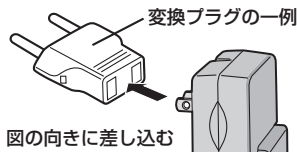
セットアップメニュー（再生モード）画面から[ビデオ出力]を選んで設定すると、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国・地域と、PAL 方式を採用している国・地域でテレビに接続して見ることができます。

日本と同じ NTSC 方式を採用している国・地域

- ●アメリカ合衆国
- ●アンチグア・バーブーダ
- ●イエメン（一部地域）
- ●英領バーミューダ諸島
- ●エクアドル
- ●エルサルバドル
- ●ガイアナ
- ●カナダ
- ●キューバ
- ●グァテマラ
- ●グァム島
- ●グレナダ
- ●コスタリカ
- ●コロンビア
- ●ジャマイカ
- ●スリナム
- ●セントクリストファー・ネイビス
- ●セントビンセント・グレナディーン諸島
- ●セントルシア
- ●大韓民国
- ●台湾
- ●チリ
- ●ドミニカ共和国
- ●ドミニカ国
- ●トリニダード・トバゴ
- ●ニカラグア
- ●ハイチ
- ●パナマ
- ●バハマ
- ●バルバドス
- ●フィジー
- ●フィリピン
- ●プエルトリコ
- ●米領サモア
- ●ベトナム（一部地域）
- ●ベネズエラ
- ●ベリーズ
- ●ペルー
- ●ボリビア
- ●ホンジュラス
- ●マーシャル諸島
- ●マリアナ諸島
- ●ミクロネシア連邦
- ●ミャンマー
- ●メキシコ

チャージャーは､全世界の電源電圧(100 V～240 V)､電源周波数(50 Hz､60 Hz)でご使用いただけるように設計しております。
市販の変圧器などを使用すると､故障する恐れがあります。

付属のチャージャーを海外で使用するには

チャージャーは、自動で全世界の電源電圧（100 V～240 V）、電源周波数（50 Hz、 60 Hz）に切り換わるように設計されています。ただし、国、地域、滞在先によって電源コンセントの形状は異なります。海外旅行をされる場合は、次ページの表を参考に電源コンセントの形状を確かめ、その国、地域、滞在先に合ったプラグを準備してください。変換プラグは、お買い上げの販売店にご相談のうえ、お求めください。
充電のしかたは、国内と同じです。

ご使用にならないときは変換プラグを AC コンセントから外してください。

■ 主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米									
アメリカ合衆国	A	カナダ	A						
ヨーロッパ・旧ソ連地域									
アイスランド	C	アイルランド	C	イギリス	B, BF	イタリア	C	ウクライナ	C
オーストリア	C								
オランダ	C	カザフスタン	C	ギリシャ	C	スイス	B, C	スウェーデン	C
スペイン	A, C								
デンマーク	C	ドイツ	C	ノルウェー	C	ハンガリー	C	フィンランド	C
フランス	C								
ベラルーシ	C	ベルギー	C	ポーランド	B, C	ポルトガル	B, C	ルーマニア	C
ロシア	C								

地域											
北米											
アメリカ合衆国	A	カナダ	A								
ヨーロッパ・旧ソ連地域											
アイスランド	C	アイルランド	C	イギリス	B, BF	イタリア	C	ウクライナ	C	オーストリア	C
オランダ	C	カザフスタン	C	ギリシャ	C	スイス	B, C	スウェーデン	C	スペイン	A, C
デンマーク	C	ドイツ	C	ノルウェー	C	ハンガリー	C	フィンランド	C	フランス	C
ベラルーシ	C	ベルギー	C	ポーランド	B, C	ポルトガル	B, C	ルーマニア	C	ロシア	C
アジア											
インド	B, C	インドネシア	B, C	シンガポール	B, BF	スリランカ	B	タイ	A, BF, C	大韓民国	A, B, C
台湾	A	中華人民共和国	A, B, BF, C, S	ネパール	C	パキスタン	B, C	バングラデシュ	C	フィリピン	A, C, S
ベトナム	A, C	香港特別行政区	B, BF	マカオ特別行政区	B, C	マレーシア	B, BF, C	モルジブ	B	モンゴル	C
オセアニア											
オーストラリア	S	グァム島	A	タヒチ	C	トンガ	S	ニュージーランド	S	フィジー	S
中南米											
アルゼンチン	BF, C, S	コロンビア	A	ジャマイカ	A	チリ	B, C	ハイチ	A	パナマ	A
バハマ	A	プエルトリコ	A	ブラジル	A, C	ベネズエラ	A	ペルー	A, C	メキシコ	A
中東											
イスラエル	C	イラン	C	クウェート	B, C	ヨルダン	B, BF				
アフリカ											
アルジェリア	A, B, BF	エジプト	B, BF, C	カナリア諸島	C	ギニア	C	ケニア	B, C	ザンビア	B, BF
タンザニア	B, BF	南アフリカ共和国	B, C	モザンビーク	C	モロッコ	C				

タイプ	A	B	BF	C	S
形状					
変換プラグ	不要です				

メッセージ表示

つづく

確認 / エラー内容を液晶モニター / ファインダーに文章で表示します。
ここでは、その主なメッセージを例として説明しています。

メッセージ	実行していただきたいこと
このメモリーカードはプロテクトされています	SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチの「LOCK」を解除してください。（P15）
表示できる画像がありません	画像を記録する、または画像が記録されたカードを入れてから再生してください。
この画像はプロテクトされています	画像のプロテクトを解除してから削除や上書きをしてください。
削除できない画像があります / この画像は削除できません	DCF 規格に準拠していない画像は削除できません。
設定枚数をこえました	複数削除で一度に設定できる枚数を超えています。一度決定してから、複数削除を続けてください。
この画像には設定できません	DCF 規格に準拠していない画像は DPOF 設定できません。
メモリーカードエラー・フォーマットしますか？	本機では認識できないフォーマットです。パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマットし直してください。 ※ miniSD™ アダプターに miniSD™ カードを入れずにカメラに挿入したときもこの表示が出ます。必ずアダプターに miniSD™ カードを入れてお使いください。
電源を入れ直してください	レンズに手などで力が加わり、正常に動作しなかった場合に表示されます。再度、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

メッセージ	実行していただきたいこと
メモリーカードエラー	カードへのアクセスに失敗しました。 もう一度カードを入れ直してください。
リードエラー	データの読み込みに失敗しました。もう一度再生してください。
ライトエラー	データの書き込みに失敗しました。カードを抜くか、一度電源を [OFF] にしてから、再度 [ON] にして記録してください。またはカードが破壊されている可能性があります。

故障かな？と思ったら

つづく

メニュー設定をお買い上げ時の状態に戻すと、症状が改善する場合があります。
セットアップメニューの [設定リセット] を実行してください。（P22）

■ バッテリー、電源について

Q（質問）	A（回答）
電源を[ON]にしても動作しない。	バッテリーは正しく入っていますか？
	バッテリーは十分に充電されていますか？十分に充電されたバッテリーをお使いください。
電源を [ON] にしてもすぐに切れる。	バッテリーが消耗していませんか？バッテリーを充電するか、十分に充電されたバッテリーを入れてください。

■ 撮影について

Q（質問）	A（回答）
画像が撮れない。	カードが入っていますか？
	モードダイヤルは正しいモードに設定されていますか？
	カードのメモリー残量はありますか？撮影する前にいくつかの画像を削除してください。
ピントが合わない。	撮影モードによってピントが合う範囲が異なります。モードダイヤルを回して、被写体までの距離に応じたモードにしてください。
	ピントが合う範囲から外れていませんか？（P31）
	何度ピントを合わせようとしても合わない場合は、電源を [OFF] にしてから、もう一度 [ON] にしてください。
撮影した写真がぶれている。	日陰や室内などで撮影すると、シャッタースピードが遅くなり、手ぶれ補正が有効に働かないことがあります。このようなときは、本機を両手でしっかり持って撮影されることをおすすめします。 また、スローシャッターで撮影するときは、三脚の使用をおすすめします。（P29）

■ 液晶モニターについて

Q(質問)	A(回答)
液晶モニター/ ファインダーの明るさが､暗くなったり一瞬明るくなったりする。	この現象は、シャッターボタンを半押ししたときに撮影時の絞り値を設定するもので、撮影画像に影響はありません。
液晶モニターに画像が出ない。	ファインダー表示になっていませんか？［EVF/LCD］ボタンを押して液晶モニター表示に切り換えてください。
液晶モニター/ ファインダーが明るすぎたり､暗すぎる。	液晶モニター / ファインダーの明るさを正しく調整してください。
液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり､常時点灯する。	これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので、安心してご使用ください。
液晶モニターにノイズが出る。	暗い場所では、液晶モニターの明るさを維持するためにノイズが出ることがあります。撮影する画像には影響しません。
液晶モニターに赤っぽい縦じまが出る。	スミアという現象です。これは CCD の特徴であり、異常ではありません。被写体に明るい部分があると出ます。動画撮影では記録されますが、静止画像には影響しません。

■ フラッシュについて

Q(質問)	A(回答)
フラッシュが発光しない。	フラッシュを閉じていませんか？[⚡OPEN] ボタンを押してフラッシュを開いてください。
	動画撮影モード [ ]、シーンモード（P57）の風景、夜景、花火を選択しているときは、フラッシュを開けていても発光しません。
フラッシュが２回発光する。	赤目軽減オートにしている場合、１回目の発光は人の瞳が赤く写る（赤目現象）のをおさえるため予備発光します。そのあと、撮影のために再び発光します。

■ 再生について

つづく

Q(質問)	A(回答)
再生した画像が、意図しない方向に回転して表示される。	本機では、縦に構えて撮影した画像を自動的に回転して表示する機能があります。（本機を上に向けたり下に向けたりして撮影すると、本機が縦に構えて撮影したと認識する場合があります） ● [回転表示]（P76）を [OFF] にすると画像は回転せずに表示されます。 ● [画像回転]（P77）で画像を回転することができます。
再生できない。	モードダイヤルは再生 [▶] に設定されていますか？
	カードが入っていますか？
	カードに再生できる画像はありますか？
再生した画像が粗い / ノイズが出る	ISO 感度が高い、またはシャッタースピードが遅くないですか？ ● ISO 感度を低くしてください。（P65） ● 画質調整を [ナチュラル] にしてください。（P70） ● 明るい場所で撮影してください。

■ テレビ、パソコン、プリンターについて

Q(質問)	A(回答)
テレビに画像が出ない。 テレビ画面が流れたり色が付かない。	正しく接続されていますか？
	テレビの入力切換を外部入力に設定してください。
	本機の［ビデオ出力］を［NTSC］に設定してください。
パソコンに接続して画像を転送できない。	正しく接続されていますか？
	パソコンが本機を正常に認識していますか？
	本機の [USB モード] を [PC] に設定してください。（P88）
パソコンにカードが認識されない。	USB 接続ケーブルを抜き、カードを入れた状態で USB 接続ケーブルを接続し直してください。
プリンターに接続して、プリントができない。	プリンターはPictBridgeに対応していますか？対応していないプリンターではプリントできません。（P91）
	本機の [USB モード] を [PictBridge(PTP)] に設定してください。（P88）

■ テレビ、パソコン、プリンターについて

Q(質問)	A(回答)
プリントすると、画像の両端が切れる。	記録画素数を [HDTV] に設定していませんか？ ● お店にプリント依頼するときは、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうかお店にお尋ねください。 ● トリミングや「ふちなし」印刷機能のあるプリンターをお使いのときは、トリミングまたは「ふちなし」の設定を解除してお試しください。（プリンターの説明書をお読みください）

■ その他

Q(質問)	A(回答)
メニューの言語が英語表示になっている。	[MENU] ボタンを押してセットアップメニュー[ ] から [ ] アイコンを選び、言語設定をしてください。
オートレビューの設定ができない。	連写（P44）、オートブラケット撮影（P42）、音声記録 [ON]（P66）、動画撮影モード [ ]（P55）になっていませんか？これらの設定のときは、セットアップメニューでオートレビューの設定はできません。
画像の一部が点滅する。	白とびが起こっている部分を示す、ハイライト表示機能です。（P27）
シャッターボタンを半押しすると、赤いランプが点灯することがある。	暗い場所ではピントを合いやすくするために、AF 補助光ランプ（P69）が赤く点灯します。
本機を振ると「カタカタ」と音がする。	これは、レンズが移動する音で故障ではありません。
ズームレバーを操作すると、「ジー」などの音がする。	ズームが動作するとき、多少音がしたり振動したりしますが、故障ではありません。
レンズ部から「カチッ」と音がする。	ズーム動作や本機を動かしたときなどで明るさが変化した場合、レンズ部から音がし、液晶モニター内の画像が急激に変わるときがありますが、撮影に影響はありません。このときの音は本機の自動絞り動作によるもので異常ではありません。

■ その他（つづき）

Q（質問）	A（回答）
時計が合っていない。	本機を長期間放置すると、時計がリセットされることがあります。「時計を設定してください」とメッセージが出ますので、再度時計の設定をしてください。
	時計設定をしない状態で撮影すると、[0. 0. 0 0:00] の日付が記録されます。
画像の周囲に、実際にはない色が付いている。	本機はレンズの特性により、色ずれが起こる場合があります。異常ではありません。

仕様

電源	DC 8.4 V
消費電力	2.1 W（液晶モニター撮影時） 2.0 W（ファインダー撮影時） 1.2 W（液晶モニター再生時） 1.1 W（ファインダー再生時）

カメラ有効画素数	500 万画素
撮像素子	1/2.5 型 CCD　総画素数 536 万画素、原色カラーフィルター
レンズ	光学 12 倍ズーム f=6 ～ 72 mm（35 mm フィルムカメラ換算：36 ～ 432 mm）/　F2.8 ～ F3.3
デジタルズーム	最大 4 倍
フォーカス	通常 / マクロ /9 点 /3 点（H）/1 点（H）/1 点 / スポット /AF 駆動切り換え
撮影範囲	通常： 30 cm（W 端時）/2 m（T 端時）～∞、 マクロ（T 端以外）/ かんたん / 絞り優先 AE/ シャッター優先 AE/ マニュアル露出時： 5 cm（W 端時）/2 m（T 端時）～∞ マクロ（T 端時）：1 m ～∞
シャッターシステム	電子シャッター連動メカニカルシャッター
連写撮影 **連写速度**	3 コマ / 秒（高速）、2 コマ / 秒（低速）、約 2 コマ / 秒（フリー連写）
連写枚数	最大 7 コマ（スタンダード）、 最大 4 コマ（ファイン）、 カードの空き容量に依存（フリー連写）
動画撮影	320×240 画素、30 コマ / 秒、 10 コマ / 秒　音声付き
ISO 感度	オート /80/100/200/400
シャッタースピード	8 ～ 1/2,000 秒 動画：1/30 ～ 1/2,000 秒
ホワイトバランス	オート / 晴天 / 曇り / 白熱灯 / フラッシュ / セットモード
露出	プログラム AE(P)、絞り優先 AE(A)、シャッター優先 AE(S)、マニュアル露出(M) 露出補正（1/3 EV ステップ、－2 ～ ＋2 EV）
測光方式	評価測光 / 中央重点測光 / スポット測光
液晶モニター	1.8 型低温ポリシリコン TFT 液晶 （13 万画素）（視野率約 100%）
ファインダー	カラー電子ファインダー（11.4 万画素） （視野率約 100%） （視度調整付き －4 ～ ＋4dioptor）

フラッシュ	内蔵ポップアップ式 撮影可能範囲： 約 30 cm ～ 4.5 m （W 端、[ISO AUTO] 設定時）
	オート / 赤目軽減オート / 強制発光（赤目軽減強制）/ 赤目軽減スローシンクロ / 発光禁止
マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
記録メディア	SD メモリーカード／マルチメディアカード
記録画素数	2560×1920 画素 /2048×1536 画素 /1600×1200 画素 /1280×960 画素 /640×480 画素 /1920×1080 画素（静止画） 320×240 画素（動画）
クオリティ（圧縮率）	TIFF/ ファイン / スタンダード
記録画像ファイル形式 静止画 音声付き静止画 動画	JPEG（DCF 準拠、Exif2.2 準拠）/ TIFF(RGB)、DPOF 対応 JPEG（DCF 準拠、Exif2.2 準拠）+640×480 画素 QuickTime（音声付き静止画） QuickTime Motion JPEG（音声付き動画）

インターフェース デジタル アナログビデオ/オーディオ	 USB 2.0（Full Speed） NTSC/PAL コンポジット（メニュー切り換え）/ オーディオライン出力（モノラル）
端子 AV OUT/DIGITAL DC IN	専用ジャック（8 pin） タイプ 3 ジャック
寸法	幅 108 mm× 高さ 68.4 mm× 奥行き 84.8 mm（突起部除く）
質量	約 290 g（本体） 約 326 g（メモリーカード、バッテリー含む）
推奨使用温度	0 ℃～ 40 ℃
許容相対湿度	10% ～ 80%

専用バッテリーチャージャー /DE-993A

定格出力	DC 8.4 V　0.43 A（充電時）
定格入力	AC100 - 240 V　50/60 Hz
入力容量	19 VA

リチウムイオンバッテリーパック：DMW-BM7

電圧 / 容量	7.2 V, 680 mAh

さくいん

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は・・・
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

- **修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！**
- **使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！**

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。
よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1年間 **「本体」にはソフトウェアの内容は含みません**

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、このデジタルカメラの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しています。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理を依頼されるとき

この説明書をよくお読みのうえ、直らないときは、まず接続している電源を外して、お買い上げの販売店へご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容	
製　品　名	デジタルカメラ
品　番	DMC-FZ5
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に

■ 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

● 保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。
下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

● 修理料金の仕組み

修理料金 は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

- 技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
- 出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

松下電器産業株式会社および松下グループ関係会社（以下「当社」）は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報（以下「個人情報」）を、下記の通り、お取り扱いします。

1. 当社は、お客様の個人情報を、ナショナル・パナソニック製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
   なお、修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合、法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合、その他正当な理由がある場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を開示・提供いたしません。
2. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。
3. お客様の個人情報に関するお問合せは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

つづく

修理に関するご相談

ナショナル・パナソニック　修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル（全国共通番号）　0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル・パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電 話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は…　**06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

ナショナル・パナソニック 修理ご相談窓口

北海道地区

札幌 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎(011)894-1251 **旭川** 旭川市2条通21丁目左1号 ☎(0166)31-6151	**帯広** 帯広市西19条南1丁目7-11 ☎(0155)33-8477	**函館** 函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内） ☎(0138)48-6631

東北地区

青森 青森市第二問屋町3-7-10 ☎(017)739-9712	**岩手** 盛岡市羽場13地割30-3 ☎(019)639-5120	**山形** 山形市平清水1丁目1-75 ☎(023)641-8100
秋田 秋田市御所野湯本2丁目1-2 ☎(018)826-1600	**宮城** 仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117	**福島** 福島県安達郡本宮町字南ノ内65 ☎(0243)34-1301

首都圏地区

栃木 宇都宮市御幸町194-20 ☎(028)689-2555 **群馬** 高崎市大沢町229-1 ☎(027)352-1109 **茨城** つくば市花畑2丁目8-1 ☎(029)864-8756	**埼玉** 桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960 **千葉** 千葉市中央区星久喜町172 ☎(043)208-6034 **東京** 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780	**山梨** 甲府市宝1丁目4-13 ☎(055)222-5171 **神奈川** 横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)847-9720 **新潟** 新潟市東明1丁目8-14 ☎(025)286-0171

つづく

ナショナル・パナソニック 修理ご相談窓口

中部地区

石川	石川県石川郡 野々市町稲荷 3丁目80 ☎ (076)294-2683	長野	松本市大字笹賀 7600-7 ☎ (0263)86-9209	岡崎	岡崎市岡町南久保28 ☎ (0564)55-5719
富山	富山市寺島1298 ☎ (076)432-8705	静岡	静岡市西島765 ☎ (054)287-9000	岐阜	岐阜県本巣郡北方町 高屋太子2丁目30 ☎ (058)323-6010
福井	福井市開発4丁目 112 ☎ (0776)54-5606	名古屋	名古屋市瑞穂区 塩入町8-10 ☎ (052)819-0225	高山	高山市花岡町3丁目82 ☎ (0577)33-0613
				三重	久居市森町字北谷 1920-3 ☎ (059)255-1380

近畿地区

滋賀	守山市勝部6丁目 2-1 ☎ (077)582-5021	大阪	大阪市北区本庄西 1丁目1-7 ☎ (06)6359-6225	和歌山	和歌山市中島499-1 ☎ (073)475-2984
京都	京都市伏見区竹田 中川原町71-4 ☎ (075)672-9636	奈良	大和郡山市筒井町 800番地 ☎ (0743)59-2770	兵庫	神戸市中央区 琴ノ緒町3丁目2-6 ☎ (078)272-6645

ナショナル・パナソニック 修理ご相談窓口

中国地区

鳥取	鳥取市安長295-1 ☎ (0857)26-9695	**出雲**	出雲市渡橋町416 ☎ (0853)21-3133	**広島**	広島市西区南観音 8丁目13-20 ☎ (082)295-5011
米子	米子市米原4丁目 2-33 ☎ (0859)34-2129	**浜田**	浜田市下府町 327-93 ☎ (0855)22-6629	**山口**	山口市鋳銭司 字鋳銭司団地北 447-23 ☎ (083)986-4050
松江	松江市平成町 182番地14 ☎ (0852)23-1128	**岡山**	岡山県都窪郡早島町 矢尾807 ☎ (086)292-1162		

四国地区

香川	高松市勅使町152-2 ☎ (087)868-9477	**高知**	南国市岡豊町中島 331-1 ☎ (088)866-3142	**愛媛**	松山市土居田町 750-2 ☎ (089)971-2144
徳島	徳島県板野郡北島町 鯛浜字かや108 ☎ (088)698-1125				

九州地区

福岡	春日市春日公園 3丁目48 ☎ (092)593-9036	**大分**	大分市萩原4丁目 8-35 ☎ (097)556-3815	**天草**	本渡市港町18-11 ☎ (0969)22-3125
佐賀	佐賀市鍋島町大字 八戸字上深町3044 ☎ (0952)26-9151	**宮崎**	宮崎市本郷北方 字草葉2099-2 ☎ (0985)63-1213	**鹿児島**	鹿児島市与次郎 1丁目5-33 ☎ (099)250-5657
長崎	長崎市東町1949-1 ☎ (095)830-1658	**熊本**	熊本市健軍本町12-3 ☎ (096)367-6067	**大島**	名瀬市長浜町10-1 ☎ (0997)53-5101

ナショナル・パナソニック 修 理 ご 相 談 窓 口

沖　縄　地　区		
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎ (098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0904

この取扱説明書の印刷には、植物性
大豆油インキを使用しています。

この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

愛情点検	長年ご使用のデジタルカメラの点検を！

こんな症状はありませんか	・電源プラグが異常に熱い ・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・水や異物が入った ・画像が乱れたり、きれいに映らない ・その他の異常や故障がある

このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故の防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　月　　日	品　番	DMC-FZ5
販売店名	☎（　　）		
お客様ご相談窓口	☎（　　）		

松下電器産業株式会社

ネットワーク事業グループ
〒 571-8504　大阪府門真市松生町１番 15 号

システム事業グループ
〒 571-8503　大阪府門真市松葉町２番 15 号

F0105Sq0 (　30000 Ⓐ)

Panasonic　デジタルカメラ　DMC-FZ5　取扱説明書